

2026年度
奈良大学大学院 秋季入学試験
文学研究科 文化財史料学専攻
(博士前期)

試験問題

専門科目

【解答に関する注意】

- ① 下記の要領で「正」「副1」「副2」として計3問を選択し、それぞれ所定の解答用紙に1問ずつ解答を記入してください。「正」は100点満点、「副1」「副2」はそれぞれ50点満点、合計200点満点で採点します。
- ② 「正」としては、志望する分野(志願票に記入した専攻分野)の問題群の中から、1問を選択し、解答区分欄「正」の解答用紙に記入してください。
- ③ 「副1」「副2」としては、すべての問題群(分野は問わない)の中から、2問を選択し、解答区分欄「副1」「副2」の解答用紙に1問ずつ記入してください。なお、「正」に選択した問題を再び選択することはできません。
- ④ 各解答用紙の分野・問題番号欄には、そこで解答する問題の分野・問題番号を記入してください。
- ⑤ 解答は枠内に横書きで記入し、裏面まで使用するときは、下枠外の「裏面へ」に○印をつけてください。

【(日)日本史学】

1. 日本古代史の史料とその特質について述べよ。
2. 日本古代の女帝とその意義について述べよ。
3. 建武新政の官人政策について述べよ。
4. 中世日本紀研究の意義について述べよ。
5. 近世日本における輸出入品が、人びとの日常生活に与えた影響を、具体的に論じよ。
6. 中世・近世日本において、村落自治が果たした政治的・社会的役割を、具体的に論じよ。
7. 自由民権運動における「激化事件」について、具体的事例を挙げて説明せよ。
8. 地方改良運動について、その背景や国民生活に与えた影響を中心に説明せよ。
9. 大正期・昭和初期にあたる 1920 年代から 30 年代初めにかけての都市化・工業化にともなう、大衆社会化と大衆文化の形成について、できるだけ多面的に詳しく論述せよ。
10. 第二次世界大戦での敗戦後・占領期における政党政治の再生、その後における政党政治の展開と 1955 年体制の形成について、できるだけ詳しく論述せよ。

【(世)世界史学】

1. 中国の律令について知るところを述べよ。
2. 安史の乱について知るところを述べよ。
3. クシャーン朝の歴史について知るところを述べよ。
4. サーサーン朝と中央アジアとの関係について知るところを述べよ。
5. 中世イベリア半島における民族と宗教の共存とその終焉について記せ。
6. カルタゴ・ローマ時代の北アフリカ(現チュニジア～アルジェリア・モロッコ北部)の歴史について知るところを記せ。
7. 18 世紀半ばのヨーロッパ国際関係において起こった「外交革命」を説明せよ。
8. 18 世紀末から 20 世紀末にかけてのエジプトの歴史について述べよ。
9. 第二次世界大戦について論じよ。
10. アメリカ独立戦争について論じよ。

【(考)考古学】

1. 考古学の研究において葬送と儀礼は重要なテーマです。具体的に遺跡や遺物などを取りあげて、葬送と儀礼について述べなさい。取り上げる時代と地域は自由とします。
2. 次の語群①～⑥のうちから一つ選び、具体的に述べなさい。
① 銅鐸 ② 須恵器 ③ 瓦積基壇
④ 天象列次分野之図 ⑤ 巴文軒丸瓦 ⑥ 積石木槨墳
3. 次の語群①～⑥のうちから一つ選び、具体的に述べなさい。
① 上野原遺跡(鹿児島県) ② 荒神谷遺跡 ③ 前畑遺跡(福岡県)
④ 宮町遺跡(滋賀県) ⑤ 長岡宮 ⑥ 佐渡島の金山
4. 地方公共団体に多くの文化財専門職員が配置されています。地方における文化財専門職員の職務範囲とその役割について説明しなさい。また、文化財専門職員として、現在求められている姿についても説明しなさい。

【(美)美術工芸史学】

1. 古代における乾漆造の作例を一つ取りあげ、その様式と形式及び構造、技法の特徴と、日本彫刻史上における重要性について述べなさい。記述にあたっては作例名と所蔵者名を最初に記すこと。
2. 中世における肖像の作例を一つ取りあげ、その様式と形式の特徴を示し、日本美術史上における重要性について述べなさい。記述にあたっては作例名と所蔵者名を最初に記すこと。
3. 正倉院蔵「鳥毛立女図屏風」について、制作地、受容者、主題、技法、構造など複数の観点から論じてください
4. 日本美術における加飾技術について、作例を一つ取り上げ、その技法の特徴を述べなさい。記述にあたっては作例名と所蔵者名を最初に記すこと。作例は、美術工芸品（建造物，絵画，彫刻，工芸品，書跡などの有形の文化的所産）の中から選んでください。

【(保)保存修復学】

1. 博物館における虫菌害対策について、以下の観点から述べなさい。
①博物館における虫菌害対策の歴史
②現状の課題
③薬剤に頼らない虫菌害対策
2. 埋蔵文化財の「修復」(接合や欠損補填)について、使用材料や方法を述べなさい。
3. 蛍光 X 線分析について、その原理と、文化財を対象とした調査の具体的な方法や問題点、過去に行われた著名な具体事例について述べなさい。

<日本史学>

【解答例、出題意図】

問題 1

①日本古代史の基本的な史料は、律令格式と総称される法制史料と、『日本書紀』『続日本紀』以下の六国史であること、②9世紀末に六国史が断絶した後は、代わって貴族の日記である記録が重要な資料となること、③古文書としては、奈良時代の正倉院文書約1万点の他、平安時代の寺社など所蔵文書については竹内理三編『平安遺文』があること、④上記の史料は基本的に活字化され、また多くの註釈書が編集刊行されており、利用しやすい状況にあるが、その一方で数量的に中世以降に比べて圧倒的に少ないこと、⑤今後増加が期待される新出の史料として、木簡などの出土文字資料があるが、文字資料である前に考古資料としての属性を兼ね備えている点に注意を要すること、などを論じた上で、受験者が特に関心を有する史料について掘り下げた記述を行ってもよい。

問題 2

日本古代の女帝は、推古、皇極、斉明（皇極が重祚）、持統、元明、元正、孝謙、称徳（孝謙が重祚）の8代6人であることを述べた上で、それぞれの即位事情について言及してほしい。そして、これらの女帝の役割として、中継ぎとしての機能を重視する従来の見解に対して、受験者各自の意見を述べてほしい。その際、女帝が為政者としての実力を評価されて推戴されたとする最近の有力な仮説について、どう評価するかの記事がほしい（論理的かつ説得力のある説明さえなされていれば、いずれの考え方を取るかは問わない）。また、古代の女帝がなぜ称徳で途絶えたかについての見通しについても言及がほしい。各女帝の役割の比較検討なども極力入れていただきたい観点である。

問題 3

出題意図 研究史上、建武政権が官司請負制を否定したか否かが、日本における官人制度を考えるうえで焦眉の課題になることを理解しているか。

問題 4

出題意図 近代につながる神話体系が、記紀神話でなく中世に読み替えられた日本紀をもとにしているという近年の神話研究を正しく理解しているか。

問題 5

以下のポイントを理解できているかが問われる。

☆蝦夷地で獲れたニシンが、魚肥として、日本の農業を支えていたこと

☆蝦夷地で獲れたコンブ、長崎や琉球～薩摩経由でもたらされる中国産・東南アジア産の砂糖が、日本の食文化を支えていたこと

☆長崎や対馬経由でもたらされる中国産・朝鮮産・東南アジア産の薬種が、日本の「健康」を支えていたこと

☆中国産生糸で織られた西陣織など、日本のファッションも対外交易によって支えられていたこと

☆日本からの重要輸出品となる銅、海産物（ナマコ、アワビ、コンブ）、樟脳の生産・収穫が、地域によっては村人たちにとっての重要な生業となっていたこと

問題 6

以下のポイントを理解できているかが問われる。

- ☆古代の律令国家では、納税責任は「個人」にあったのが、14 世紀以降、徐々に「村」が納税責任を負うようになり、17 世紀以降の近世では、年貢の村請が支配方式の主軸となること
- ☆中近世の村落自治は、年貢徴収だけでなく、構成員の認定や、山野の利用ルール、用水管理や灌漑施設の維持・管理、村内寺社の維持・管理など、生活全般に影響を与えるものであったこと

問題 7

- ①激化事件発生の背景として、松方デフレによる農民の困窮化、集会条例・新聞紙条例などによる運動への政府の弾圧、自由党の一部の急進化などが説明されていること。
- ②1882 年（明治 15）～1885 年（明治 18）に発生したこと。
- ③福島事件（1882 年）・秩父事件（1884 年）・加波山事件（同年）・大阪事件（1885 年）などを取りあげて説明していること。個別事件を具体的に説明できていれば加点。
- ④運動の過激化や弾圧による自由党の解党など民権運動の退潮や中下層農民なども含んだ民衆の政治意識の高まりがあったこと。民衆の政治意識の高まりについて具体的に説明できていれば加点。

問題 8

- ①日露戦争後の国力増強政策の一環として、町村財政の確立や生活習俗の改良をめざした官製の運動であったこと。
- ②義務教育年限の延長などが町村財政を圧迫したこと。その解決のために 1906 年（明治 39）の地方官会議、1908 年（明治 41）の「戊申詔書」発布があったこと。
- ③共有林野の統合による町村基本財産の造成、由緒不明の小社・小祠の整理、村内祭礼の整理と旧暦による慣行の廃止、農事改良、町村是の制定などがあったこと。具体的事例について説明できていれば加点。
- ④伝統習俗の消滅、青年団の結成、産業組合の結成など、農山漁村の「近代化」を推進したこと。「近代化」の負の側面についても触れていれば加点。

問 9

出題意図： 高校の教科書でも概説されている主要な事項であり、大学までの学びをふまえた確かな理解・素養を持ち合わせていることを見定めるために出題した。

解答のポイント： 第一次世界大戦下（1914～18 年）の大きな社会変動であった都市化・工業化の様相と絡めて、「都市中間層」、すなわち、「俸給生活者」（サラリーマン）の増加を述べる。加えて、「職業婦人」といわれた働く女性たちの出現にも言及しつつ、「大衆（マス）」の出現、および、「大衆社会・文化」とは何かを説明する。そのうえで、新しいマスメディアの出現・発達、それと大いに関わる娯楽、衣・食・住といったライフスタイルについて具体的に述べていく。また、文芸（文学・演劇）や学問の動向にも目配りされていれば、なおよい。

問 10

出題意図： 高校の教科書でも概説されている事項であり、大学までの学びをふまえた確かな理解・素養を持ち合わせていることを見定めるために出題した。

解答のポイント： 政党政治の「再生」について述べるにあたっては、昭和戦前期における政党政治の展開と崩壊について概観する必要がある。その概観をふまえて、おもな政党の再生を述べる。続いて、「中道左派」連立政権（片山哲・芦田均内閣）から「保守」の吉田茂内閣（第 2 次以降）への流れについて、必ず言及してほしい。「その後」、すなわち、占領終結（講和・独立）後における展開と 1955 年体制の形成については、左右両派に分かれていた社会党の統一、そして、「保守合同」による自由民主党の結成に行き着く経緯を述べる。

<世界史学>

【解答例、出題意図】

問1

律と令がそれぞれどのようなものであるかを説明し、また秦漢の律をはじめとする歴代王朝で公布された律・令について、おおよそ正しく述べられていれば60/100点。これに加えて、格・式・断例など律令に附随して発展した法令、関係文献の伝存状況、裁判における律の運用の実態などについて記述されていれば、その精粗に応じて加点する。

問2

安禄山と史思明の出自、事件の原因となる社会的背景、反乱のおおよその経緯、中国内外におけるその後の影響について、ひとつおおよそ述べられていれば60/100点。これに関わる地理的形勢、政治的動向、経済的変動、文化的意義、国際的影響など、記述の精粗に応じて加点する。

問3

以下のキーワードを含んで、適切に解説されているかどうかで評価する：大月氏、大夏、バクトリア、クジュラ・カドフィセス、ヴィマ・タクトゥ、ヴィマ・カドフィセス、カニシュカ、フヴィシュカ、ヴァースデーヴァ、シルクロード、インダス川、ガンジス川、バクトリア語碑文、『史記』、『漢書』、『後漢書』

問4

以下のキーワードを含んで、適切に解説されているかどうかで評価する：アルダシール1世、シャープール1世、ナルセー、シャープール2世、ラーゲ・ビービー磨崖浮き彫り、バクトリア語文書、カアバ・イエ・ザルドゥシュト碑文、パイクリ碑文、カダグスターン、ガンダーラ、フン族、キオニタエ、キダーラ、エフタル、アルハン

問5

中世のイベリア半島については、従来キリスト教徒による再征服（レコンキスタ）の視点で語られることが多かった。しかし、近年では最後の数百年間に至るまでは宗教と民族の共存が常態であり、その後もイタリアのローマ教皇庁やそれに応える十字軍とは様相を異にしており、またイスラーム圏でも北アフリカに成立した原理主義的な諸王朝とイベリアでは温度差があったことが知られている。この点について、以下の知見を有しているかが判定基準となる。

・共存の時代

—711年、ウマイヤ朝が西ゴート王国を征服し、イベリア半島にイスラーム勢力が進出。以後、イスラーム教徒（ムスリム）、キリスト教徒（モサラベ）、ユダヤ教徒が共存する社会が形成された。イスラーム支配下では、異教徒に対して「ジズヤ（人頭税）」を課すことで信仰の自由を一定程度保障し、自治も認められた。—アンダルス（イスラーム・スペイン）では、アラビア語やイスラーム文化が浸透し、モサラベの中には改宗する者も現れた。哲学・医学・数学などイスラーム学問がコルドバなどでラテン語に翻訳され、ヨーロッパの12世紀ルネサンスに影響を与えた。

—一方で、宗教的緊張も存在し、9世紀には「コルドバの殉教者」事件など、キリスト教徒による抗議行動も起きた。

・共存の終焉と「レコンキスタ」

—11 世紀以降、キリスト教諸国が勢力を拡大し、「レコンキスタ（再征服運動）」が進展する。しかし、その途上でもイベリア半島ではキリスト教諸国もイスラーム教諸国もお互い統一が取れておらず、対立する同教の隣国に対抗するために相手側と結ぶ場合も多かった。

—しかし 15 世紀になるとカスティーリャ王国が抜きん出た地位を誇るようになり、半島の統一に向けて動き始め、キリスト教統治下のイスラーム教徒（ムデハル）やユダヤ教徒に対する迫害が強まる。

1492 年にグラナダ王国が陥落するとイスラーム支配は完全に終焉し、またこの年にユダヤ教徒の追放も行われ、宗教的寛容の時代は終わり、カトリックによる宗教的統一が進められることになる。

出題意図 レコンキスタ時代のイベリア半島について、従来の国民国家的な視点やキリスト教中心主義ではない近年の見方に知見を有しているかを問う。

問 6

古代の北アフリカについては、カルタゴとそれをローマが征服するポエニ戦争のみが有名であるが、現代ではカルタゴ以前の先住民や周辺民族、それにローマ征服以後のカルタゴ文化や周辺諸民族の文化の継続の様相が重視され、古代以降への継続と発展も視野に入れられ始めている。リニューアされつつある古代北アフリカ史にどの程度知見があるかを問う設問で、以下の諸点に関する基礎的な知見があるかが判定基準となる。

・カルタゴの興隆（前 814 年～前 146 年）

—地中海東部のフェニキア人が貿易の拠点として現在のチュニジア北部に植民都市カルタゴを建設する。彼らは造船技術と海上交易に優れ、西地中海の覇者として繁栄し、イベリア半島南部や北アフリカ沿岸各地に植民都市を築き、広域支配を展開した。

・ポエニ戦争と滅亡

—しかし、シチリア島のギリシア植民都市の支配権をめぐって勃興しつつあったローマとの覇権争いが生じ、前三世紀から三度にわたるポエニ戦争が勃発する。第二次ポエニ戦争ではカルタゴの将軍ハンニバルがアルプス越えてイタリア半島に進撃してローマを追い詰めるが、最終的に前 202 年のザマの戦いで敗北し、第三次ポエニ戦争では前 146 年、都市カルタゴがローマ軍により徹底的に破壊され、滅亡する。このとき、カルタゴに反発する内陸マウレタニアの遊牧民の勢力がローマ側に利用されたが、征服後は彼らもローマに撃破されて支配されることになる。

・ローマ時代の北アフリカ

—前 44 年、カエサルによってカルタゴ市が再建されると、以後ローマ属州アフリカの主婦として繁栄を取り戻すことになる。北アフリカはローマ帝国の穀倉地帯として重要な役割を果たし、現アルジェリア北部の山岳地帯やリビア沿岸部ではローマ文化が浸透し、各地にローマ風の都市が建設される。—現在も残る道路網や都市遺跡は、しかし単純にローマ文化を模倣しているだけでなく、カルタゴ時代のポエニ文化や先住民の信仰や言語の痕跡をとどめるものであり、彼らの多くが「ローマ人」として社会参加することにより、ローマ帝国自体が支えられることになった。五賢帝時代終了後の帝国の混乱を鎮めたのは現リビア北岸のレプキス・マグナ出身でポエニ人の血を引く皇帝セプティミウス・セウェルスであるし、現在に至るまでの西方カトリック神学の礎となったアウグスティヌスは、マウレタニアの土着文化の中で生まれ育ち、カルタゴで学び、ローマやミラノで神学を形成した後、故郷の北アフリカの小都市タガステで司教となり、その地で神学を完成させている。

—アウグスティヌスの死と同時期の北方ヴァンダル族の侵入で終焉とする歴史叙述が多いが、その後ヴァンダル族はローマ化し、さらにビザンツに征服されて 7 世紀にはカルタゴからの艦隊がビザンツの首都コンスタンティノープルの危機を救うなど、その後も北アフリカは重要な役割を果たす。

—これが次のイスラーム時代にどう継承されるかの解明が今後の課題となろう。

出題意図 古代北アフリカの歴史を単なる遠い過去のぶつ切りの歴史の一コマとみるのではなく、現代的な視点で見直す知見を有しているかを問う。

問 7

「外交革命」とは、1756 年にそれまで敵対していたフランスとオーストリアが同盟関係を結んだことを指す。「外交革命」の説明として、以下の事項が述べられていることを求める。

- ・「外交革命」とは、オーストリア継承戦争と七年戦争とのあいだの 1756 年にフランスとオーストリアとの同盟関係が成立し、一方で、それまで中立的であったプロイセンがイギリスとの同盟関係に入ったことを指す。
- ・ヨーロッパ大陸におけるフランスの勢力抑制をイギリスが追求し（特に、イギリス王家の出身地であるハノーヴァ防衛を重要視していた）、勢力を伸長させつつあったプロイセンをそのためのパートナーとする決断をした（1756 年 1 月、英普同盟成立）。
- ・オーストリアが対仏同盟締結の決断をした背景には、オーストリア継承戦争においてイギリスが要求した同盟の「代償」にマリアテレジアが不満をもったことがあり、シュレジエン奪還のためプロイセンと対抗する際に必要となる、新たなヨーロッパ大国との同盟を求めることになった（1756 年 5 月、仏墺ヴェルサイユ条約）。
- ・七年戦争の主な結果。

問 8

以下の事項が述べられていることを求める。

ナポレオンのエジプト遠征／ムハンマド・アリー朝の成立と近代化政策／スエズ運河建設と債務危機、英仏による財政管理／ウラービー革命とイギリスの侵攻、イギリスによる事実上の保護国化／ワフド党による 1919 年革命／1922 年の「独立」／エジプト・イギリス同盟条約（1936 年）／イスラエル成立と第 1 次中東戦争／自由将校団クーデタとファールーク国王の追放／スエズ戦争と戦争に至る経緯／ナセル時代の内政・外交／サダト大統領就任と対ソ、対米関係の転換／キャンプデーヴィッド合意／サダト、ムバーラク時代の内政・外交

問 9

- ・第二次世界大戦が、なぜどのように始まったのかについて、基本的な事実を踏まえて論じているところを評価する。
- ・史料・証言などを使用した実証的研究を反映して論じているところを評価する。
- ・第二次世界大戦は総力戦であり、さまざまな側面から論ずることが可能であるため、被爆者、戦時下の新聞報道、沖縄戦など、具体的内容に焦点を当て、専門的に論じているところを加点する。
- ・第二次世界大戦後 80 周年にあたってさまざまな著作が出版されているが、最新の研究を反映しているところを加点する。

問 10

- ・アメリカ独立戦争が、なぜどのように始まったのかについて、基本的な事実を踏まえて論じているところを評価する。
- ・史料・証言などを使用した実証的研究を反映して論じているところを加点する。
- ・アメリカ合衆国憲法の策定、アメリカ独立宣言、アメリカ独立戦争時の国際情勢など、具体的かつより広い視野でアメリカ独立戦争について論じているところを加点する。

<考古学>

【問題、解答例、出題意図】

1. 考古学の研究において葬送と儀礼は重要なテーマです。具体的に遺跡や遺物などを取りあげて、葬送と儀礼について述べなさい。取り上げる時代と地域は自由とします。

(1) 出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査に関わる際に必要となる、資料をもとに考えをまとめる力を確認することを目的とする。そして考古学の基本的なテーマである葬送と儀礼についての理解を確かめるものである。人がどのように死者を送り、どのような儀式を行ったかは、その時代の社会や人々の考え方を知る手がかりとなる。解答にあたっては、具体的な遺跡や遺物をあげ、それらを通して葬送や儀礼の意味を自分なりに考察する力が求められる。単に遺物や遺構などを説明するだけでなく、その背景にある社会構造や信仰などにも触れ、筋道の通った論述ができるかを評価する。

(2) 解答例

本問の解答は、具体的に時代を決め、具体的な遺跡や遺構、遺物を取り上げて論じ、一つの時代や複数の時代にわたって論じてよい。

何が大事か：葬送は、亡くなった人をどのように埋葬したかという行為そのものであり、儀礼はその埋葬を支える社会的・宗教的な行い全体を指す。したがって内容については、「葬送」と「儀礼」を区別して考え、かつ両者の関係について考えて論じることが大切である。

書き方の要点：たとえば古墳時代を取り上げる場合には、古墳の形や副葬品をただ並べて説明するのではなく、それらが当時の人々の考え方や社会のしくみをどのように表しているかを、理解し考えて書くことが求められる。また、時期や地域によって葬送の形がどう変わったか、その背景にある社会の変化とあわせて説明すると、より深い内容になる。考古学では「モノから社会を読み解く」ことが基本であり、実際の遺物や遺跡を根拠に、筋の通った自分の考察を示すことが重要である。知識の多さよりも、具体的資料を使ってしっかりと考える力が評価の中心となる。

2. 次の語群①～⑥のうちから一つ選び、具体的に述べなさい。

- | | | |
|------------|---------|---------|
| ① 銅鐸 | ② 須恵器 | ③ 瓦積基壇 |
| ④ 天象列次分野之図 | ⑤ 巴文軒丸瓦 | ⑥ 積石木槨墳 |

(1) 出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査に関わる際に必要となる考古学の基礎的知識のなかで、様々な時代や地域の遺構と遺物に関しての理解力を評価することを狙いとする。そして、特定の考古学用語を通して、受験者が遺物・遺構などを辞書的な用語の説明だけでなく、その遺物・遺構を当時の社会的・歴史的文脈の中で理解することを目的とするものである。提示された語群はいずれも日本考古学における主要な遺物・遺構であり、時代・地域・機能・技術・文化的背景を総合的に考察する必要がある。

(2) 解答例

問1—①解答例

銅鐸は弥生時代中期から後期にかけて近畿を中心に長野県以西で出土する青銅製祭器であり、その形態や鈕の形態変化で編年が構築されている。そして銅鐸は当初「聞く銅鐸」として音を鳴らす機能をもっていたが、後期には大型化し、音を失って「見る銅鐸」へと変化していった。銅鐸の多くは埋納さ

れ、銅鐸を保有する集落や地域の祭祀の象徴として機能した。

何が大事か：銅鐸を単に青銅製の祭器として説明するのではなく、埋納行為にも焦点をあてて、その形態・用途の変化を通して祭祀や信仰の弥生社会の変化を読み取ることが重要である。銅鐸は単独ではなく複数で埋納される例が多く、共同体の祭祀や地域間の関係を象徴する資料といえる。さらに、多数の銅鐸鋳型や関連遺物が出土した大阪府茨木市東奈良遺跡のように、新たにはじまった金属器の生産とそれを可能とした社会との関係も焦点となる。

書き方の要点：たとえば、「東奈良遺跡では多数の銅鐸鋳型が出土し、弥生時代中期における銅鐸生産の拠点的性格が明らかとなった。そして銅鐸は聞く銅鐸から見る銅鐸へ変化し、その多くは埋納された」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問2—②解答例

須恵器は古墳時代中期以降に登場し、高温焼成技術をもつ窯業の発達と社会変化を示す代表的資料である。したがって、たとえば大阪府の陶邑窯跡群や奈良県の東山古窯跡群など具体的遺跡を挙げ、その成立と分布、製作技術、流通の広がりを通して当時の社会的背景を論じることが求められる。

何が大事か：須恵器の形や製作技術の説明として説明するだけでなく、その技術がどのように伝来し、社会の中でどのような役割を果たしたかを考えることが重要である。須恵器は単なる日常雑器ではなく、首長層による新しい生産体制の成立や、古墳祭祀への関わりなど、社会構造の変化を読み取る姿勢が求められる。

書き方の要点：たとえば、「古墳時代中期の陶邑窯跡群では、朝鮮半島系の技術を受けた登窯で須恵器が大量に生産され、畿内から各地へ広がった。この技術は地域間交流の拡大を支え、やがて律令国家形成の基盤となった」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問2—③解答例

瓦積基壇は建築遺構の基壇化粧に瓦を使って積み上げる方法である。その積み方は、水平にして積む方法や瓦を合掌造り形に積む方法など、いくつかの種類がある。日本における瓦積基壇の成立は、穴太廃寺や南滋賀廃寺や檜隈寺・高麗寺などの古代寺院で初期の瓦積基壇建物が検出されていることから、百済滅亡と大津宮遷都が大きな画期になったと考えられ、渡来系氏族の建立寺院に多い。実際、韓半島の百済にも多く見られることから、渡来人の寺院のメルクマールにもなっている。

何が大事か：瓦積基壇の構造だけを説明するのではなく、その造営氏族にも焦点をあてて、その変遷や分布・構造の変化を通して、渡来系氏族との関係を読み取ることが重要である。瓦積基壇は渡来系氏族が建立した寺院に多く、朝鮮半島の百済にも類例が多い。このように渡来人との関係についても焦点となる。

書き方の要点：瓦積基壇を採用する寺院を具体的な事例にあげ、その造営氏族が渡来人であることを論証し、韓半島での事例も踏まえて、渡来人との関連を論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問2—④解答例

『天象列次分野之図』は李氏朝鮮の初期(1395)に作成された石刻星図である。その碑文より、高句麗末期(668)に戦乱により大同江に沈められた石刻天文図の印本(拓本)が李氏朝鮮の初めに見つかり、その原図をもとに洪武28年(1395)に再刻された石刻星図とされる。その図柄は、同心円の内に、多くの星座を描いている。天文図の観測場所は中国と推定されるが、高句麗において自国用に修正された。これと酷似する天文図が、キトラ古墳天井に描かれている。これは西暦700年頃のもので、中国・韓半島から招来したものであることから、当時の東アジアの天文学の知識レベルを示すとともに、国際交流の状況も示している。

何が大事か：『天象列次分野之図』を単に朝鮮半島の天文図としてだけ説明するのではなく、その経緯や、日本の天文図との関連にも焦点をあてて、当時の国際交流を読み取ることが重要である。また、日本にあるキトラ古墳の天文図との比較により、東アジア天文学の技術・知識レベルと伝播が窺われる。

書き方の要点：『天象列次分野之図』の製作経緯や、その概要を説明するだけでなく、当時の東アジア世界との関連で、具体的事例を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問2—⑤解答例

平安時代後期は瓦の文様にバリエーションが生まれ、巴文軒丸瓦もその中の一つである。巴文軒丸瓦はその後急速に普及し、現代まで軒丸瓦文様の主流となっている。主に3つの巴が組み合う三巴文が大多数を占める。飛鳥時代に瓦生産が開始されて以降、軒丸瓦文様の主流は仏教の象徴である蓮華であったが、この蓮華文と比較すると、巴文は文様構成が極めて単純であることが特長として挙げられる。巴文の採用に関しては、密教の普及を背景とする説、瓦生産の拡大を背景に生産の効率性を高めるべく簡略な文様を採用したとする説、生産地・生産者間での品質差を小さくするべく採用したとする説などがある。文様構成が単純なことから瓦研究によく用いられる同範認定による分析が難しく、製作技法を主眼に研究が進められることが多い。

何が大事か：巴文軒丸瓦の特徴を単に述べるだけでなく、主流となる文様がそれ以前の蓮華文から平安時代の後期に大きく転換すること、さらにそれがその後現代にいたるまで続くことを把握しているかが重要である。また、その背景となる古代から中世にかけての瓦生産の転換についての知識が問われる。

書き方の要点：巴文軒丸瓦の普及かつ長期にわたる定着の状況を単に説明するだけでなく、その背景に結び付けて自分なりに論じているかどうかを判断基準とする。

問2—⑥解答例

積石木槨墳とは、埋葬施設として丸太状の木材で構築した木槨を中心に据え、その周囲や上部に人頭大の河原石を積み上げて墳丘を築いたものをいう。墳丘は頂部に平坦部を持たず、墳丘平面は楕円形や不定形を示すものもある。朝鮮半島の東南部に位置した三国時代の新羅では都が置かれた慶州地域において4世紀代にこの積石木槨墳が出現し、6世紀前半まで王陵に採用され、新羅の葬制を特徴づけるものと認識されている。代表例としては皇南大塚や天馬塚がある。3世紀以降に日本で築かれた古墳は埋葬施設は石室を構築し、墳丘を土によって築造するものがほとんどであるが、わずかながら長野県や四国地方に積石墳が散見する。また、積石墓としては、北方ユーラシアに分布するスキタイ系遊牧民族によるクルガンや、将軍塚などの高句麗の王陵にも見ることができ、新羅の積石木槨墳との関係が指摘されている。

何が大事か：積石木槨墳の構造を説明するだけでなく、新羅の葬制の特徴として把握できているかが重要である。また、周辺国・周辺文化の葬制とその影響について把握できているかも焦点となる。

書き方の要点：積石木槨墳の特性を踏まえ、その成立に関わる周辺域の葬制に触れつつ日本やアジアにおける文化交流の関係性を論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに事例を比較しながら論じ、自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

3. 次の語群①～⑥のうちから一つ選び、具体的に述べなさい。

- | | | |
|---------------|---------|-------------|
| ① 上野原遺跡（鹿児島県） | ② 荒神谷遺跡 | ③ 前畑遺跡（福岡県） |
| ④ 宮町遺跡（滋賀県） | ⑤ 長岡宮 | ⑥ 佐渡島の金山 |

（１）出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査に関わる際に必要となる考古学の基礎的知識のなかで、様々な時代や地域の遺跡に関しての理解力を評価することを狙いとする。そして、特定の考古学用語を通して、受験者が遺物・遺構などを辞書的な用語の説明でだけでなく、その遺跡を当時の社会的・歴史的文脈の中で理解することを目的とするものである。提示された語群はいずれも日本考古学における主要な遺跡であり、時代・地域・文化的背景を総合的に考察する必要がある。

（２）解答例

問３―①解答例

上野原遺跡（鹿児島県霧島市）は縄文時代早期を代表する大規模集落遺跡であり、火山灰層に覆われたことで当時の生活が良好に保存された「災害遺跡」として知られる。遺跡では竪穴住居跡や集石遺構が多数確認され、壺形土器、耳飾り（耳栓）、早期土偶など多様な遺物が出土している。これらの資料を通して、火山活動と共存しながら生活した縄文人の社会構造や精神文化を考察することが求められる。

何が大事か：上野原遺跡の特徴を単に列挙するのではなく、そこから縄文時代早期の生活様式や信仰、自然との関わりを読み取ることが重要である。集石遺構や土偶・耳飾りなどの遺物は、単なる生活用品ではなく、儀礼や祈りの場で用いられた可能性が高い。また、火山噴火によって集落が埋没したという自然災害の痕跡は、縄文人の環境への適応力や再生への信仰を考える上でも重要な手がかりとなる。

書き方の要点：たとえば、「上野原遺跡では、火山灰に覆われた縄文早期の集落跡から土偶・耳栓・壺形土器などが出土し、儀礼的要素をもつ生活空間が明らかとなった。自然災害と共に生きた縄文人の信仰と共同体の姿を示す」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問３―②解答例

本問の解答は、まず時代と地域を明確にし、具体的な遺跡を取り上げて論じることが大切である。荒神谷遺跡（島根県出雲市）は弥生時代後期の遺跡で、358本の銅剣、16本の銅矛、6個の銅鐸という大量の青銅器が一括して出土したことで知られる。これらの出土状況や性格を通じて、当時の社会構造・祭祀形態・地域的特色を考察することが求められる。

何が大事か：荒神谷遺跡を単なる青銅器の出土地の説明として説明するだけでなく、なぜこのような大量の青銅器が一か所に埋納されたのか、その背景や社会的意味を考えることが重要である。たとえば、出雲地域が弥生時代後期において特異な祭祀文化圏を形成していたこと、また銅剣・銅矛・銅鐸という異なる系統の青銅器が共伴する点に、地域間の関係や信仰の変化を読み取る姿勢が求められる。

書き方の要点：たとえば、「荒神谷遺跡は弥生時代後期における青銅器祭祀の集中を示し、出雲地域が西日本の祭祀ネットワークにおいて重要な位置を占めていたことを示す。特に銅剣・銅矛・銅鐸の共伴は、武器祭祀から権威の象徴化への変化を物語る」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問3—③解答例

前畑遺跡（福岡県筑紫野市）は丘陵上に造営された古代遺跡で、大宰府関連の土塁状遺構として新規に発見された。大宰府政庁・条坊域の北方には大野城、南方には基肄城、東方には阿志岐山城跡などの古代山城が配置されている。また、水城や小水城（上大利水城跡・とうれぎ土塁など）が谷部を封鎖している。これらの遺跡を含めて、「大宰府羅城」の想定もあり、前畑遺跡の土塁遺構も一連の施設とみることができる。この検証のため、「大宰府外郭線」として調査を実施しているが、まだ結論はでていない。いずれにしても、大宰府を取り巻く遺跡群の構造は、白村江敗戦直後における我が国の国防状況を示す指標となる。

何が大事か：前畑遺跡の内容について解説するだけでなく、関連する遺跡群にも言及し、大宰府をめぐる外郭線（羅城）との関わりについて読み解くことが重要である。未だ、確定したものではないが、当時の国際状況や国防について言及することも必要である。

書き方の要点：単体の遺跡として捉えるのではなく、関連遺跡群として認識することにより、個々の遺跡の解説だけではない、大局的な見方が可能となる。また、古代史の中での位置づけを、具体的事例とを結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問3—④解答例

宮町遺跡（滋賀県甲賀市）は奈良時代の宮殿遺跡であり、紫香楽宮と推定されている。従来、内裏野廃寺とよばれる寺院跡が紫香楽宮と考えられていたが、宮町遺跡で正殿や長大な朝堂、内裏正殿などの宮殿中枢部の建物群や木簡などが確認されたことにより、奈良時代の聖武朝造営の紫香楽宮であることが判明した。聖武天皇は天平年間に東国へ彷徨し、恭仁京や難波宮・紫香楽宮を造営して一時遷都した。宮町遺跡以外にも、鑄造遺跡である鍛冶屋敷遺跡や道路跡・官衙施設である新宮神社遺跡など、紫香楽宮関連遺跡が集中している。この宮町遺跡の発見により、奈良時代の離宮・宮殿構造が明らかになるとともに、平城宮・恭仁宮・難波宮との比較研究が進んだ。

何が大事か：宮町遺跡の内容について解説するだけでなく、関連する遺跡群にも言及し、紫香楽宮周辺の状況も読み解くことが重要である。また、平城宮・恭仁宮・難波宮との比較研究による奈良時代の宮殿構造を解明することも必要である。

書き方の要点：単体の遺跡として捉えるのではなく、関連遺跡群として認識することにより、個々の遺跡の解説だけではない、大局的な見方が可能となる。また、古代史の中での位置づけを、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問3—⑤解答例

長岡宮（京都府向日市）は奈良時代末期または平安時代初期の宮殿である。条坊制を備えた長岡京の北端中央に位置していた。平城宮からの遷都にあたっては、桓武天皇により山陽道・山陰道だけでなく、淀川など水陸交通などを理由に選地されたとされる。中山修一ら有志による発掘調査を皮切りに現在まで継続的な発掘調査が実施されているが、それによれば、向日丘陵の段丘地形を改変して官衙域を形成しており、朝堂院南門・回廊、大極殿・小安殿といった宮内の建物群が確認されている。平城宮からの移築や資材の搬入も多く行われたと考えられるが、きわめて短期間で整備された中枢部の大極殿や朝堂院は出土瓦の分析から後期難波宮の資材が転用されていることが指摘されている。

何が大事か：単に長岡宮の事象を羅列するだけでなく、古代の宮についてこれまでの調査・研究で何が判明しているのかを読み解き、あくまでも考古学的見地から論じる姿勢が重要である。

書き方の要点：古代の宮殿遺跡について、構造・立地・保存の経緯など自分なりのテーマを設定し、具体的事例をあげつつ論じる。また、古代都城に関する体系的な理解を考古学的見地から筋道立てて示すことが評価の中心となり、長岡宮に関しては、平城宮・後期難波宮・平安宮との関係について筋道を立てて示すことが評価の中心になる。

問3—⑥解答例

佐渡島（新潟県佐渡市）に分布する複数の金鉱山・銀鉱山及び関連遺跡は「佐渡島の金山」と総称され、2024年に世界遺産に登録された。古代から砂金を算出していたが、江戸時代初期に相川金山が開発されると、佐渡島における金銀山の開発が本格化し、日本最大かつ世界有数の産出量を誇るに至った。幕府は佐渡島を直轄領として佐渡奉行を置き、佐渡で算出した金銀は筋金・灰吹銀として幕府に上納させた。その金銀は当時の幕府財政を支え、海外との交易にも活用された。現在、佐渡島の西側・西南部に、採掘・採鉱に関する遺構のほか、佐渡奉行所跡などの鉱山経営に関する遺構・遺跡が分布し、それらは「佐渡金銀山遺跡」と一括して史跡に指定されている。

何が大事か：単に遺跡の内容を記述するだけでなく、文化財に関する時事問題に関心を持ち、直前に世界遺産に登録されたことを記述する必要がある。佐渡島産出の金銀が歴史上どのような意義があったのか、かつ鉱山遺跡にとどまらず周辺の関連遺跡との関わりも含めて論じる姿勢が重要である。

書き方の要点：単体の遺跡として捉えるのではなく、関連遺跡群として認識することにより、個々の遺跡の解説だけではない、大局的な見方が可能となる。また、近世史の中での位置づけを、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。

4. 地方公共団体に多くの文化財専門職員が配置されています。地方における文化財専門職員の職務範囲とその役割について説明しなさい。また、文化財専門職員として、現在求められている姿についても説明しなさい。

（1）出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査・保護に関わる際に必要となる考えをまとめる力を確認することを目的とする。そして文化財専門職員の職務や必要性についての理解を確かめるものである。文化財専門職員の職務範囲や役割は非常に幅が広く、特に近年は、活用面が社会全体として求められている。解答にあたっては、文化財専門職員が行っている具体的な仕事内容やその範囲について記し、現代社会において何が求められているのかを把握し、自分なりに何を行うべきかを論述できるかを評価する。

（2）解答例

本問の解答は、具体的な職務範囲について記し、特に、現代社会において求められている文化財の調査・研究・保護・活用について論じる。

何が大事か：多岐にわたる文化財専門職員の職務の内容を把握することと、現在、文化財専門職員に求められている要請を理解して、何をすべきかを論じることが重要である。

書き方の要点：文化財の専門職員は調査・研究だけではなく、保護・活用業務も行っている。特に、現代社会の要請により、文化財保護法が改正され、文化財を観光や地域振興に活用する方向性が重視された。また、従来、文化財保護部局は教育委員会に属していたが、首長部局の観光や地域振興・政策部局に属するようになり、観光・地域振興との密接な連携が行えるようになった。このような情勢の中、自らどのような活用を行うことができ、それを如何に文化財保存に活かせるかを論述することにより、しっかりとした考える力が評価の中心となる。

<美術工芸史学>

【問題、解答例、出題意図】

1. 古代における乾漆造の作例を一つ取りあげ、その様式と形式及び構造、技法の特徴と、日本彫刻史上における重要性について述べなさい。記述にあたっては作例名と所蔵者名を最初に記すこと。

出題意図

博士前期課程学生に相応しい知識を有するかを問う。

解答例

古代日本の作例としては、脱活乾漆では、八部衆（興福寺）、十大弟子（興福寺）、千手千眼観音像（葛井寺）、盧舎那仏（唐招提寺金堂）、鑑真和上像（唐招提寺御影堂）、木心乾漆では薬師如来立像（唐招提寺金堂）、千手観音立像（唐招提寺金堂）などがあげられる。

代表作例として、興福寺の阿修羅像（八部衆のうち）をとりあげる。奈良時代に制作された本像は、脱活乾漆の三面六臂の立像で、上半身は裸形で条帛、胸飾りを付け、腕に臂釧や腕釧をつける。

脱活乾漆造という技法は、まず粘土で像の原型を作る。原型の上に、木屎漆をつけた麻布を何重にも貼り重ね、漆が乾いた後、中の粘土の原型を掻き出して抜き取る。これにより、中が空洞の軽量の像の本体ができる。さらに木屎漆で細部を仕上げて、顔の表情や衣の皺などを精密に作った上に彩色や金箔を施して完成させる。

粘土で原型を作り、木屎漆というペースト上の材料で表面を仕上げるために、造形上の制約が少なく、自由な造形、繊細な仕上げを可能とする。阿修羅像の憂いを帯びたかのように眉根を寄せる表情も、この技法によって可能となっている。

また漆を用いているために極めて堅牢な上に、中が空洞であるため、非常に軽量で持ち運びが容易という特徴がある。そのため、興福寺は度重なる火災に見舞われたが、運び出して守り伝えられてきた。

写実的で人間味豊かな表現が特徴で、中国・唐代の様式の影響を強く受けている。日本彫刻史上の意義は、当時の高度な造形技術を現存作例として示すことにより規範となったこと、尊像としてのあべき姿を示す理想主義と実在する少年の表情を再現したかのような写実主義を融合したことが特に重要であると考えられる。

2. 中世における肖像の作例を一つ取りあげ、その様式と形式の特徴を示し、日本美術史上における重要性について述べなさい。記述にあたっては作例名と所蔵者名を最初に記すこと。

西大寺の木造叡尊坐像（叡尊上人坐像）をとりあげる。弘安3年（1280）に80才の賀を記念して制作された寿像である。木造、寄せ木作り、素地仕上げである。胎内に大量の納入品がある。像内の銘記により、弟子の鏡恵・惣持が発願し、仏師善春が春聖・善実・堯善とともに造ったことがわかっている肖像彫刻の基準作の1つである。

左手に拂子を持ち、右手を膝前に伸ばす。偏衫を左前に着け、袈裟を円環で吊す。

顔は口を結んで前方を見る。眉毛が長くのび垂れ下がり、両眼の下にはたるみがみえる。鼻は大きくやや丸味を帯びる。額には血管が浮く様子が表現され、老齢であることが生々しく写実されている。

頭部と体部が、安定した三角形の正面観を示し、両袖がさらに左右に長く伸び広々とした空間を感じさせるため、写実的である一方、威厳とおかしがたい隔たりも感じさせる。

美術史上重要であるのは、生前の叡尊上人本人を目の当たりにするような迫真性をもった肖像彫刻であることと、生前の叡尊上人の分身であるとしてとして尊崇されてきたため、本像を規範として同寸あるいは縮小の模像が制作されていることである。こうした模像制作を通じて、技術的にも美術的な規範としてもその造形が後代に影響を与えていることが重要である。

3. 正倉院蔵「鳥毛立女図屏風」について、制作者、受容者、主題、技法、構造など複数の観点から論じてください

【解答例】

六曲で、それぞれの扇が縁取りをもつ形式の一扇縁とりの屏風である。

「鳥毛立女図屏風」の制作者は明らかではない。ただ、天平文化を代表する傑作であると認められている。鳥毛が日本産のヤマドリであることから日本で制作されたものである。

受容者は聖武天皇である。聖武天皇の愛用品で、天皇の崩御後、光明皇后により、他の遺品とともに東大寺の大仏（盧舎那仏）に奉納したことで、正倉院に伝えられた。『国家珍宝帳』にも記載されている。制作時期は 8 世紀のいわゆる天平年間であると考えられる。

主題は不明だが、屏風の各扇に 1 人ずつ、樹木の下に佇む女性が描かれている。豊満な容姿や花鈿と呼ばれる額の装飾などからみて、唐代の女性を描いたものとみられる。美人図として紹介されることもあるが、唐代の墓室内装飾「樹下人物図」の形式を踏襲している点から見て、女性を鑑賞するために制作されたものではない。

技法構造としては、輪郭線と薄墨による陰影がつけられているほかに、着衣の部分にヤマドリの羽毛を貼り付けている点が特異である。鳥の毛を貼り付けたという点からみて、冥界と現世を行き来する鳥でもある天人を描いたものではないかという谷口耕生氏の説がある。

4. 日本美術における加飾技術について、作例を一つ取り上げ、その技法の特徴を述べなさい。記述にあたっては作例名と所蔵者名を最初に記すこと。作例は、美術工芸品(建造物,絵画,彫刻,工芸品,書跡などの有形の文化的所産)の中から選んでください。

（解答例）

東京国立博物館所蔵の尾形光琳作「八橋蒔絵螺鈿硯箱」は、「伊勢物語」八橋の場面の重要なモチーフを金の蒔絵、光る貝の螺鈿、そして灰色の鉛板を複合的に組み合わせて表現している。

漆の躯体の上に金粉を平らに密に蒔いて燕子花の葉とし、花卉の部分はアワビなどの虹色に光る部分を薄く切り取って貼る螺鈿の技法が使われている。

そして、橋の形に鉛板を貼っている。鉛板を貼る技法は、本阿弥光悦作「舟橋蒔絵硯箱」にも使われているが、「八橋蒔絵螺鈿硯箱」では板橋の質感を出すために、腐食させるなどの技法も使われている。

橋桁は銀板で鉛板とは異なる質感を見せている。

絵画的表現ではあるが、人物の姿は描かれず説明的ではない。大胆な加飾によって、「伊勢物語」八橋という古典を連想させる仕掛けを作っている。

<保存修復学>

【問題、解答例、出題意図】

問1.博物館における虫菌害対策について、以下の観点から述べなさい。

- ①博物館における虫菌害対策の歴史
- ②現状の課題
- ③薬剤に頼らない虫菌害対策

出題意図

文化財保存に関して近年大きな問題になっている課題の把握程度を問う。

解答例

臭化メチルは1932年にフランスで殺虫効果が発見され、1930年代半ば以降、特にアメリカで農業害虫対策として研究が進んだ。日本の博物館では終戦後、海外の動向を受けて臭化メチル燻蒸が実用化された。従来の殺虫剤が使えなかった植物や一部の果物にも有効で、細菌やカビにも効果があり、ガスが急速に深く浸透し、大量の対象物に対しても安全な処置が可能であるとされていた。

しかし1987年に採択されたモントリオール議定書により、オゾン層破壊物質である臭化メチルの製造・消費が規制され、2005年以降、先進国での使用が全廃された。これにより、博物館における虫菌害対策は大きく方向転換を迫られることになった。

そのため、化学薬剤に頼るだけでなく、複数の対策を合理的に組み合わせて有害生物の発生を許容水準内に抑える「総合的有害生物管理（IPM：Integrated Pest Management）」の考え方が、1990年代には博物館、美術館等の文化財保存分野に適用されるようになり、図書館にも普及しつつある。IPMでは、温湿度管理、トラップ調査、新規資料への殺虫・殺菌処置、清掃、侵入経路の遮断などが具体的な取り組みとして挙げられる。

また臭化メチルの代替として、二酸化炭素処理、低温処理、窒素置換による低酸素濃度処理などが実施されているが、これらはカビには効果がないため、より効果的なカビ対策が求められている。

更に直近では2025年3月末に、汎用性の高い燻蒸剤、エキヒュームS（酸化エチレン、1,1,1,2-テトラフルオロエタン）の販売が中止され、薬剤に頼らない虫菌害対策が更に重要なものとなっている。

問2.埋蔵文化財の「修復」（接合や欠損補填）について、使用材料や方法を述べなさい。

出題意図

文化財に関する基本的な取り組み姿勢、知識を問う。

解答例

ここでの修復とは、破片の接合、欠損の補填を指す。

文化財の保存修復に用いられる材料には可逆性が担保されていることが必要とされる。しかし埋蔵文化財修復の場合、作業性やコストの観点で材料が選ばれることが多い。特に接着剤に関しては、強

度が必要となる場合に、エポキシ系といった非溶解性のものが使われることもある。その場合、物理的な除去（切削や熱による分解）をもって「可逆性」とせざるを得ない。

埋蔵文化財で修復の対象となることが多いものとして、土器、木製品、金属製品が挙げられる。このうち、土器は発掘調査で大量に出土し、それを効率的に修復して図化する必要があることから、誰もが簡単に作業できるセメダインによる接合、石膏による欠損補填という方法が用いられる。

木製品や金属製品の場合、石膏のように水を使った材料は禁忌されるため、欠損補填には合成樹脂が用いられることが多い。エポキシ樹脂に軽量化や切削性向上を目的としてマイクロバルーンを添加したものが使われる。接合に関しては、木製品では、埋蔵環境下での資料の劣化により、接合部分に隙間が広く空くものが多くなる。セメダインのように溶剤の揮発によって接合する接着剤では体積が減少し接着強度が低下することもあり、2液混合のエポキシ系の接着剤が推奨されている。金属製品では土器よりも重量のあるものも多く、強度を確保するためにエポキシ系接着剤の使用が推奨されるが、接着面が密着する状態であれば、可逆性のあるセメダインでも十分使用に耐え得ると考える。

いずれにしても、使用した材料は記録に残すことで、将来的な再修復の際の手掛かりとすることが必要である。

問3. 蛍光 X 線分析について、その原理と、文化財を対象とした調査の具体的な方法や問題点、過去に行われた著名な具体事例について述べなさい。

出題意図

保存科学における基本的な調査機器の知識を問う。

解答例

蛍光 X 線分析は、対象試料に X 線を照射し、試料を構成する元素から得られる二次 X 線（蛍光 X 線）を検出器で捉え、そのエネルギー値から元素の種類を、また強度から量を判別する分析手法である。非破壊で元素情報が得られることから、文化財の調査に活用されている。

ただし据置型の装置では、対象資料の大きさが試料室の大きさによって制約を受けるため、文化財用に試料室を大型化した装置も開発されている。近年では可搬型の装置も普及し、それによって分析可能な資料の幅が広がっている。

また一般的な装置の場合、検出可能な元素の範囲がナトリウム～ウランとなっており、主に無機物で構成される、岩石・鉱物や金属、それらを原料とするガラスや顔料といった文化財が対象となる。また非破壊による表面分析の場合、埋蔵文化財では表面の汚染や腐食による元素組成比の変化、元素の偏析などがあるため、特に定量分析の場合に結果の解釈には注意を要する。

日本では 1960 年に文化財指定された陶磁器の真贋が問われた永仁の壺事件で用いられたのが、文化財分野での本格的な運用の始まりとされる。1990 年代後半以降は制御部分に家庭用のパーソナルコンピュータが用いられるようになるなど汎用性が高くなり、考古資料や美術品を対象に様々な調査で使われてきた。考古資料では東京文化財研究所による埼玉県稲荷山古墳出土象嵌鉄剣の金象嵌を対象にした分析では、115 文字の途中から金と銀の組成比が変わるといった報告もある。

二〇二六年度

奈良大学大学院 秋季入学試験

文学研究科 文化財史料学専攻（博士前期）

試験問題（文献史料）

【解答に関する注意】

- ①

一

 ～

五

 の中から1題を選択して解答せよ。
- ② 漢和辞典の持ち込み可（電子辞書は不可）。

〔一〕 次の史料を書き下しにしない。（読点は適宜句点に差し替え、引用符も付けること。年月日は写さなくてよい。）

『類聚三代格』巻四 加減諸司官員并廢置事

太政官符

応令貢氏女事

右檢令条、諸氏氏別貢女、皆限年卅已下十三已上、而中間停廢、略無遵行、今被右大臣宣稱、奉勅、凡件女者、氏之長者択氏中端正女貢之、其十三已上之徒、心神易移、進退未定、宜採女年卅已上卅已下時無夫者、或貢後適人、必令貢替、又官途忿忙、独難取捨、急速之事、当有援助、宜長者相補令得仕進、自今以後立為恒例

大同元年十月十三日

□次の史料『賀茂別雷神社文書』所収の後奈良天皇女房奉書を読み下し、その大意を記せ。なお、読み下しをおこなうさい、ひらがな部分を漢字に直したほうが適切と考えられるところはそれらをすべて漢字にせよ。

返々、水をいたつらによそにおとし候はんするよりは、御いけに入候やうにおほせ事

(行間書)

候へく候、御いけに入候やうに、さやうの所はよく／＼おほせきためられ候へく傍よ

し、なを申とて候、かしく、

御いけの水の事につきて、かも一社よりの申しやう御らんせられ候、田地のめいわくによりて、四月より七月まで水を申うけ候はんするよし、御心え候、さりなから、又水もゆたかに候はんする時ハ、この四か月の中にも、御わたくしより人をつかはされて、しせんハ水を御いけに入候やうにかくおほせ事候へく候、いさゝかも田地にめいわくに候ハ、それもうちをかれ候へく候、返々、四月より七月の事ハ御心えのよし、よく／＼社中へおほせ事候へく候よし申とて候、

(切封墨付)
「」

まての

こうち中納言とのへ

(萬里小路惟房)

次の史料は、大和国の村で明和二年に書き留められた幕府法令の一部である。条文を翻刻し、そこから読み取れる近世日本社会の特徴を論じよ。

一 鉄炮火銃所用之威
鉄炮火銃並外村中不
下隠者若隠者老若
男子より山下津屋鉄
炮火銃又之通相傳
或負傳之者罰金

一 百姓等刀鎧停止之度

左の文書を全文翻刻せよ。

地所賣渡証書

一 芝地 長 拾五町
少 四町

此地價金 拾三圓 日本拾銭

可々地所賣渡 地價正 拾五町 少 四町
此 地所賣渡 地所 二 年 師 遠 札 十 町 の
地所 賣渡 地所 為 渡 証書 同 以 件

明治廿九年 八月一日

地所賣渡 証書
菊 地所賣渡 証書

菊 地所賣渡 証書

丹 九 町 の 股

次の漢文を現代日本語に翻訳せよ。

大月氏國居藍氏城、西接安息、四十九日行、東去長史所居六千五百三十七里、去洛陽萬六千三百七十里。戶十萬、口四十萬、勝兵十餘萬人。初、月氏為匈奴所滅、遂遷於大夏、分其國為休密・雙靡・貴霜・盼頓・都密、凡五部翕侯。後百餘歲、貴霜翕侯丘就卻攻滅四翕侯、自立為王、國號貴霜王。侵安息、取高附地。又滅濮達、罽賓、悉有其國。丘就卻年八十餘死、子閼膏珍代為王。復滅天竺、置將一人監領之。月氏自此之後、最為富盛、諸國稱之皆曰貴霜王。漢本其故號、言大月氏云。

<文献史料>

【解答例、出題意図】

①

太政官符す

応に氏女を貢がしむべき事

右令条を検ずるに、諸氏の氏別に女を貢ぐは、皆年卅已下十三已上を限る。而るに中間停廢し、略遵行すること無し、今右大臣の宣を被るに偁く、「勅を奉るに、『凡そ件の女は、氏の長者、氏中の端正なる女を択び之を貢げ。其れ十三已上の徒は、心神移ろひ易く、進退未だ定まらず。宜しく女の年卅已上卅已下の、時に夫無き者を採るべし、或いは貢ぐ後に人に適がば、必ず替はりを貢がしめよ。又官途怠忙なりて、独り取捨し難し。急速の事、当に援助有るべし。宜しく長者相補ひ仕へ進むることを得しむべし。自今以後立てて恒例と為せ。』」

②

〔読み下し〕

返す返す、水を徒に他所に落とし候わんずるよりは、御池に入れ候様に仰せ事

候べく候、御池に入れ候様に、左様の所はよくよく仰せ定められ候べく候由、

なお申せとて候、かしく、

御池の水の事に付て、賀茂一社よりの申し様御覧ぜられ候、田地の迷惑によりて、四月より七月まで水を申し請け候わんずる由、御心得候、さりながら、また水も豊かに候わんずる時は、この四カ月の中にも、御わたくしより人を遣わされて、自然は水を御池に入れ候様に堅く仰せ事候べく候、聊かも田地に迷惑に候わば、それも打ち置かれ候べく候、返す返す、四月より七月の事は御心得の由、よくよく社中へ仰せ事候べく候由申せとて候、

(切封墨付)

「ーー」

万里

小路中納言殿へ

〔大意〕

上賀茂社より御池の水のことにつき、後奈良天皇へ訴え事があったが、それに対し天皇が勾当内侍を介して返答したものである。具体的には、四月から七月まで御池の水を利用することについては天皇としても了解した旨が伝えられるとともに、水が豊富であったのなら、御池のほうにも水を入れるべきではあるものの、田地に不都合がないようにすべきとの天皇の意向が万里小路惟房を通じて上賀茂社へ伝えられたことが読みとれる。

③

一、鉄炮之儀、獵師筒、又者威鉄炮渡置候外、村中ニ不可隠置。若隠置候者有之者、早々可申出候。拝借鉄炮之儀、証文之通、相心得、暫茂貸シ借り可為無用事。

一、百姓帯刀堅停止之事。

→以下のポイントを理解できているかが問われる。

☆近世日本の村人は、秀吉の「刀狩り」によって、武器をすべて取り上げられて「丸裸」にされていたのではなく、むしろ鉄砲などの武器は「持っている」ことが、幕府法令でも前提とされていること

☆ただし、武器所持は「自由」だったのではなく、幕府が村人たちへ鉄砲を「貸し渡す」(村人たちが幕府から「拝借」する)という体裁をとった「許可制」であったこと

☆幕府法令で禁止されている「帯刀」とは、脇差などの「小刀」も含めた「刀」一般ではなく、武士という身分を視覚的に示す「長刀の二本差し」を意味していたこと

☆身分制における武士と百姓の差は、武器を「持っているか否か」にあったのではなく、鉄砲所持の許可制や、長刀の二本差しの禁止に示されるように、武器の「利用のされ方」にあったこと

4

【翻刻】

地所売渡証書

一芝地 長拾壱間

横式間半

此地価金拾三円五拾銭

右之地所売渡し地価正ニ請取候処実正也

然ル上者右地所ニ付、聊違乱申もの

決而無御座候、為後日証書因如件

地所売主

明治九丙子年第一月 菊地原治郎右衛門（印）

証人

菊地原新兵衛（印）

石井九左衛門殿

※ありふれた売券で、文章・文字とも平均的なものである。

5

大月氏国は藍氏城を居城とし、西方では安息と接するまでに49日の距離、東方では（西域）長史がいる所と6537里離れており、洛陽とは16370里離れている。戸数は10万、人口は40万、兵士は10万人ほどである。その昔、月氏が匈奴に滅ぼされ、ついには大夏に移動し、その国を分けて休密・雙靡・貴霜・盼頓・都密という、全部で5つの翕侯とした。100年程後になって、貴霜翕侯の丘就卻は（残りの）4翕侯を滅ぼし、自立して王となり、国を貴霜（王）とした。安息を侵略し、高附の土地を奪取した。さらに、濮達、罽賓、を滅ぼし、それらの国をことごとく占領した。丘就卻が80歳ほどで死去すると、子の閼膏珍がかわって王となった。復さらに、天竺を滅ぼし、（そこに）將軍1人を任命し統治させた。月氏はこれ以降最も強勢を誇り、諸国はみな（その王を）貴霜王と読んだ。漢はその元々の呼び名に従い、大月氏と呼んでいる。

2026年度
奈良大学大学院 秋季入学試験
文学研究科 文化財史料学専攻
(博士前期)

試験問題

英 語

【解答に関する注意】

- ① 日本史学もしくは世界史学を専攻する志願者は、の英語を選択し解答せよ。なお、解答は解答用紙に記入すること。
- ② 美術工芸史学、考古学もしくは保存修復学を専攻する志願者は、の英語を選択し解答せよ。なお、解答は解答用紙に記入すること。
- ③ 英和辞典の持ち込み可(電子辞書は不可)。

A (日本史学・世界史学を専攻するもの)

次の英文を翻訳せよ。

The power of the British state, of course, rested on a growing economy, an economy that during the last third of the eighteenth century was being transformed by industry. The questions of whether the shift to industry was revolution or gradual, and of why England experienced this fundamental shift first, have been widely debated. Most of these debates need not detain us here. It will suffice to suggest, following Hobsbawm, that among Britain's advantages in the late eighteenth century, three stand out: the domestic market, the empire, and an activist state. The "great size and the steadiness" of the home market provided the "broad base for a generalized industrial economy," especially for the development of food-processing industries, coal, and, of course, the industry central to the first phase of Britain's Industrial Revolution: textiles. The development of cotton and textiles, in turn, was also deeply connected to Britain's imperial links: all cotton was imported, first from slave-owned plantations in the West Indies and then from the same in the United States; manufactured textiles were in turn exported, and the colonies were taking up nearly two-thirds of all exports toward the end of the century. During the nineteenth century, as we will see, India became a central market for British textiles. An activist state was essential to the early stages of the Industrial Revolution; a laissez-faire state was not the cause but a result of industrial success in Britain. The British state was run by commercial interests, and, in turn, it consistently intervened to support profitmaking by both merchants and manufacturers.

出典 : Atul Kohl, *Imperialism and the Developing World: How Britain and the United States Shaped the Global Periphery* (Oxford University Press, 2020), p. 39.

B

(美術工芸史学・考古学・保存修復学を専攻するもの)

下の文章は島根県出雲市の大社基地遺跡群に関するものである。日本語に訳しなさい。

Nearly 80 years have passed since the end of the Asia-Pacific War, and the importance of war remains is increasing. In response to this situation, this paper focuses on the following two points. I try to clarify the actual conditions and characteristics of the final stage of air bases through archaeological analysis of the Taisha base ruins in Izumo City, Shimane Prefecture. Second, archaeological research on war remains can provide an important perspective for thinking about war itself and society surrounding war. As a result of this examination, it is highly possible that resources were conserved during construction based on the structural characteristics of various remains, but more than that, the pursuit of functionality as an airport, the dispersal and concealment of various facilities, and the shortening of the construction period. It was evaluated that the aspect of socialization was positioned as a more important element. In addition, I thought that the fact that the technology and resources were invested as much as possible to realize these things can be read from the remains of the various facilities that make up the Taisha base. In this way, the Taisha base ruins tell us, who live in the present day, the realities of the exercise of power to expand armaments even in the final stage of the war, and the realities of the construction of air bases that disturbed the local community.

出典：岩本崇「考古学からみたアジア・太平洋戦争末期の航空基地の特質－旧海軍大社基地遺跡群の考古学的検討－（日本考古学協会「日本考古学第 57 号」2023 年）

<英語>

【解答例】

A 英語訳例

もちろん、イギリス国家の力は成長する経済を基盤としていた。その経済は 18 世紀の最後 3 分の 1 の時期、工業によって変貌を遂げつつあった。工業への転換が革命的なものであったのか、それとも漸進的なものであったのか、またなぜこの根本的变化を最初に経験したのがイギリス（イングランド）であったのかという問いは、広く議論されてきた。しかし、これらの議論の詳細に立ち入る必要はここではない。ホブズボームの議論に従うが、18 世紀末イギリスが有していた優位のなかで、三つが際立っていたことを指摘するので十分であろう。それは、国内市場、帝国、そして積極的介入国家であった。「規模と安定性」を備えた国内市場は、「一般的な工業経済のための広い基盤」を提供し、とりわけ食品加工産業、石炭産業、そしてもちろん、イギリス産業革命の最初の局面において中心となった繊維業の発展を支えた。綿業と繊維産業の発展は、さらにイギリスの帝国ネットワークと深く結びついていた。すべての原綿は、最初は西インド諸島の奴隷プランテーションから、次いでアメリカ合衆国の同様のプランテーションから輸入された。製造された繊維製品はこんどは輸出され、18 世紀末にはその輸出の約 3 分の 2 が植民地向けであった。19 世紀に入ると、後に見るように、インドがイギリス繊維製品の主要市場となった。産業革命の初期段階においては、積極的介入国家が不可欠であった。自由放任主義的な国家は、原因ではなく、むしろ産業的成功の結果であった。イギリス国家は商業利害によって動かされ、反対に、商人や製造業者の利益追求を支えるために介入を一貫して行っていた。

B 英語訳例

太平洋戦争の終結から約 80 年が経過し、戦争遺跡の重要性が増している。この問題への解答として、論文では以下の 2 点に着目した。第 1 に、著者は島根県出雲市大社基地の考古学的分析を通じ、最終段階の空軍基地に関する実際の遺存状況と特徴を類型化することを試みた。第 2 に、戦争遺跡に関する考古学的調査は戦争そのものと、社会環境について考える重要な視点を提供することができる考えた。検討の結果、様々な遺構の建築学的特徴に基づく構造物が検討対象として保存されている可能性が高いだけでなく、様々な設備を分散させ、隠すという空軍基地としての機能性の追求がなされていること、建設期間の短さなどが明らかになった。最も重視された機能は公共性の面にあったことが看取された。加えて、著者は様々な設備の痕跡から、大社基地を建設するに当たり、可能な限りの技術と資源が投入されたと考えた。これらのことから、大社基地の遺跡は現代を生きる我々に、戦争の最終局面においても武装を拡大する権力の行使と、地域社会を混乱させた基地建設の現実を教えてくれる。

2026年度
奈良大学大学院 春季入学試験
文学研究科 文化財史料学専攻
(博士前期)

試験問題

専門科目

【解答に関する注意】

- ① 下記の要領で「正」「副1」「副2」として計3問を選択し、それぞれ所定の解答用紙に1問ずつ解答を記入してください。「正」は100点満点、「副1」「副2」はそれぞれ50点満点、合計200点満点で採点します。
- ② 「正」としては、志望する分野(志願票に記入した専攻分野)の問題群の中から、1問を選択し、解答区分欄「正」の解答用紙に記入してください。
- ③ 「副1」「副2」としては、すべての問題群(分野は問わない)の中から、2問を選択し、解答区分欄「副1」「副2」の解答用紙に1問ずつ記入してください。なお、「正」に選択した問題を再び選択することはできません。
- ④ 各解答用紙の分野・問題番号欄には、そこで解答する問題の分野・問題番号を記入してください。
- ⑤ 解答は枠内に横書きで記入し、裏面まで使用するとき、下枠外の「裏面へ」に○印をつけてください。

【(日)日本史学】

- (1) 墾田永年私財法の内容、施行の目的、後世への影響を説明しなさい。
- (2) 平城太上天皇の変(薬子の変)以前における太上天皇の執政と、院政期における太上天皇の院政の違いを説明しなさい。
- (3) 西大寺叡尊教団の救癪病院について説明せよ。
- (4) 佐藤進一の官司請負制説について説明せよ。
- (5) 近世日本の貿易と、近代日本の貿易について、共通点と相違点を意識しながら、具体的に論じよ。
- (6) 近世日本の税制と、近代日本の税制について、共通点と相違点を意識しながら、具体的に論じよ。
- (7) 明治の維新政府による近代化政策と、社会における反抗の動きについて、できるだけ詳しく述べよ。
- (8) 明治から大正にかけての近代産業の誕生・発展と、社会問題・社会運動の出現について、できるだけ詳しく述べよ。
- (9) 日中戦争期からアジア・太平洋戦争期にかけての戦時統制と社会・文化、および、人びとの暮らしについて、できるだけ多面的に述べよ。
- (10) サンフランシスコ講和体制の特徴、および、冷戦期における日本のアジア外交について、知るところを述べよ。

【(世)世界史学】

- (1) 中国史でいう「六朝文化」について知るところを述べよ。
- (2) 清代の八旗制度について知るところを述べよ。
- (3) ムガル朝の創始者バーブルについて知るところを述べよ。
- (4) ソグド人の信仰していた宗教・文化について知るところを述べよ。
- (5) 古典期アテナイについて知るところを述べよ。
- (6) ビザンツ帝国について知るところを述べよ。
- (7) 16世紀後半の独立戦争期から18世紀初頭にかけてのオランダの歴史について説明せよ。
- (8) 北大西洋条約機構(NATO)について、その成立から21世紀初頭までの展開を説明せよ。
- (9) 19世紀の日米交流史について、文化・外交・経済のいずれかの側面に焦点を当てて論じなさい。
- (10) モンロー主義について以下の言葉を入れて論じなさい。
(孤立主義、ドンロー主義、米国の中南米政策)

【(考)考古学】

1. 考古学における墓制について、具体的な遺跡・遺構・遺物を取り上げて論じなさい。

2. 次の語群①～⑥のうちから一つ選び、論じなさい。

- | | | |
|--------|--------|----------|
| ①水場遺構 | ②円筒埴輪 | ③東北産黒色土器 |
| ④ガラス埴埴 | ⑤皇朝十二銭 | ⑥野面積 |

3. 次の語群①～⑥のうちから一つの遺跡を選び、論じなさい。

- | | | |
|-------|----------|---------|
| ①大森貝塚 | ②椿井大塚山古墳 | ③中尾山古墳 |
| ④豊楽殿 | ⑤平城山瓦窯群 | ⑥旧大乘院庭園 |

4. 現在、文化財を地域振興・観光振興に活用した取り組みとして「日本遺産」がある。現時点で日本遺産に認定されている数を答えなさい。また、その中の1つを選び、認定名称と認定年度、内容、利活用状況について、詳細に記しなさい。

【(美)美術工芸史学】

1. 日本美術史上における仏像、神像あるいは肖像の一作品を取りあげ、その様式と形式の特徴を示しなさい。さらに日本美術史における歴史的立場づけについて述べなさい。記述にあたっては作品名と所蔵者名を最初に記すこと。

2. 日本美術における唐風と和風について、具体的事例をあげて、形式の違い、表現の違いを論じなさい。

3. 日本美術における図像の転写とその変容を示す事例について、具体的作例を通じて述べなさい。

4. 尾形光琳筆「燕子花図屏風」(根津美術館蔵)について、画題、構図、技法など複数の観点から論じなさい。あわせて尾形光琳の画業について知るところを記しなさい。

【(保)保存修復学】

1. 文化財の調査、保存、活用について、具体的な事例を取り上げて、その方法や課題について述べなさい。

2. 次の文化財に関する用語から三つを選び、それぞれ200字程度で説明しなさい。

- ①蛍光 X 線分析
- ②総合的有害生物管理 (IPM)
- ③文化財防災センター
- ④文化財保存活用地域計画
- ⑤X 線 CT
- ⑥国宝修理装飾師連盟
- ⑦赤外線カメラ
- ⑧トレハロース処理法

3. 文化財を劣化させる要因である温度、湿度、光、空気質、生物、災害の中から一つを取り上げ、それに対する保存対策について説明しなさい。

2026年度
奈良大学大学院 春季入学試験
文学研究科 文化財史料学専攻
(博士前期)

試験問題

専門科目

【解答に関する注意】

- ① 下記の要領で「正」「副1」「副2」として計3問を選択し、それぞれ所定の解答用紙に1問ずつ解答を記入してください。「正」は100点満点、「副1」「副2」はそれぞれ50点満点、合計200点満点で採点します。
- ② 「正」としては、志望する分野(志願票に記入した専攻分野)の問題群の中から、1問を選択し、解答区分欄「正」の解答用紙に記入してください。
- ③ 「副1」「副2」としては、すべての問題群(分野は問わない)の中から、2問を選択し、解答区分欄「副1」「副2」の解答用紙に1問ずつ記入してください。なお、「正」に選択した問題を再び選択することはできません。
- ④ 各解答用紙の分野・問題番号欄には、そこで解答する問題の分野・問題番号を記入してください。
- ⑤ 解答は枠内に横書きで記入し、裏面まで使用するとき、下枠外の「裏面へ」に○印をつけてください。

【(日)日本史学】

- (1) 墾田永年私財法の内容、施行の目的、後世への影響を説明しなさい。
- (2) 平城太上天皇の変(薬子の変)以前における太上天皇の執政と、院政期における太上天皇の院政の違いを説明しなさい。
- (3) 西大寺叡尊教団の救癪病院について説明せよ。
- (4) 佐藤進一の官司請負制説について説明せよ。
- (5) 近世日本の貿易と、近代日本の貿易について、共通点と相違点を意識しながら、具体的に論じよ。
- (6) 近世日本の税制と、近代日本の税制について、共通点と相違点を意識しながら、具体的に論じよ。
- (7) 明治の維新政府による近代化政策と、社会における反抗の動きについて、できるだけ詳しく述べよ。
- (8) 明治から大正にかけての近代産業の誕生・発展と、社会問題・社会運動の出現について、できるだけ詳しく述べよ。
- (9) 日中戦争期からアジア・太平洋戦争期にかけての戦時統制と社会・文化、および、人びとの暮らしについて、できるだけ多面的に述べよ。
- (10) サンフランシスコ講和体制の特徴、および、冷戦期における日本のアジア外交について、知るところを述べよ。

【(世)世界史学】

- (1) 中国史でいう「六朝文化」について知るところを述べよ。
- (2) 清代の八旗制度について知るところを述べよ。
- (3) ムガル朝の創始者バーブルについて知るところを述べよ。
- (4) ソグド人の信仰していた宗教・文化について知るところを述べよ。
- (5) 古典期アテナイについて知るところを述べよ。
- (6) ビザンツ帝国について知るところを述べよ。
- (7) 16世紀後半の独立戦争期から18世紀初頭にかけてのオランダの歴史について説明せよ。
- (8) 北大西洋条約機構(NATO)について、その成立から21世紀初頭までの展開を説明せよ。
- (9) 19世紀の日米交流史について、文化・外交・経済のいずれかの側面に焦点を当てて論じなさい。
- (10) モンロー主義について以下の言葉を入れて論じなさい。
(孤立主義、ドンロー主義、米国の中南米政策)

【(考)考古学】

1. 考古学における墓制について、具体的な遺跡・遺構・遺物を取り上げて論じなさい。

2. 次の語群①～⑥のうちから一つ選び、論じなさい。

- | | | |
|--------|--------|----------|
| ①水場遺構 | ②円筒埴輪 | ③東北産黒色土器 |
| ④ガラス埴埴 | ⑤皇朝十二銭 | ⑥野面積 |

3. 次の語群①～⑥のうちから一つの遺跡を選び、論じなさい。

- | | | |
|-------|----------|---------|
| ①大森貝塚 | ②椿井大塚山古墳 | ③中尾山古墳 |
| ④豊楽殿 | ⑤平城山瓦窯群 | ⑥旧大乘院庭園 |

4. 現在、文化財を地域振興・観光振興に活用した取り組みとして「日本遺産」がある。現時点で日本遺産に認定されている数を答えなさい。また、その中の1つを選び、認定名称と認定年度、内容、利活用状況について、詳細に記しなさい。

【(美)美術工芸史学】

1. 日本美術史上における仏像、神像あるいは肖像の一作品を取りあげ、その様式と形式の特徴を示しなさい。さらに日本美術史における歴史的な位置づけについて述べなさい。記述にあたっては作品名と所蔵者名を最初に記すこと。

2. 日本美術における唐風と和風について、具体的事例をあげて、形式の違い、表現の違いを論じなさい。

3. 日本美術における図像の転写とその変容を示す事例について、具体的作例を通じて述べなさい。

4. 尾形光琳筆「燕子花図屏風」(根津美術館蔵)について、画題、構図、技法など複数の観点から論じなさい。あわせて尾形光琳の画業について知るところを記しなさい。

【(保)保存修復学】

1. 文化財の調査、保存、活用について、具体的な事例を取り上げて、その方法や課題について述べなさい。

2. 次の文化財に関する用語から三つを選び、それぞれ200字程度で説明しなさい。

- ①蛍光X線分析
- ②総合的有害生物管理 (IPM)
- ③文化財防災センター
- ④文化財保存活用地域計画
- ⑤X線CT
- ⑥国宝修理装飾師連盟
- ⑦赤外線カメラ
- ⑧トレハロース処理法

3. 文化財を劣化させる要因である温度、湿度、光、空気質、生物、災害の中から一つを取り上げ、それに対する保存対策について説明しなさい。

<日本史学>

【問題、解答例、出題意図】

問1 墾田永年私財法の内容、施行の目的、後世への影響を説明しなさい。

1. 743年の施行当初は、条件付きで開墾田の永代私有を認めるものであった。
 - ・位階などによる面積制限。
 - ・国司在任中の開墾は離任後に収公。
 - ・開墾予定地占定に国司の許可が必要で、3年以内に開墾しなければ無効。
2. 日本の律令は新規の開墾地を把握するシステムを欠くため、私有を条件に開墾地を自己申請させ登録することで、土地の実態把握を図った。
3. 墾田は輪租田のため、開墾地の増加による租収入の増加を期待できた。
4. 面積制限は後に無効となり(称徳朝の開墾禁止令と光仁朝での撤廃が転機と考えられる)、荘園拡大に繋がることになる。

○評価の指針

上記の内容をどの程度理解できているのかを評価する。上記の他、施行の目的として、三世一身法の問題点や、天平年間の疫病による人口の激減への対応などを挙げるのも良い。

問2 平城太上天皇の変(薬子の変)以前における太上天皇の執政と、院政期における太上天皇の院政の違いを説明しなさい。

1. 変以前は、天皇と太上天皇は並立する立場で執政し、同様に勅を発して太政官に命令したが、院政では太上天皇は太政官に直接命令するのではなく、摂関を操ることで太政官を動かしていた。
2. 変以前に太上天皇執政を行った上皇は、天皇の直系男性尊属に限らなかったが、院政を行えたのは天皇の直系男性尊属のみで、天皇家の家父長として権威を持ち、天皇の政務を代行した。
3. 院政期には、天皇は律令国家を観念的に体現する君主として言わば建て前の政治を行うのに対して、院は人事・軍事問題の処理などの実質的な政治を行った。

○評価の指針

上記の内容のうち1・2の記述は重要である。上記の他、平城太上天皇の変の太上天皇の立場への影響、院の内裏外居住や院庁・院近臣などに言及するのも良い。

問3 西大寺叡尊教団の救癪病院について説明せよ。

叡尊教団による非人遺棄政策であり、近代のハンセン病患者強制隔離政策の歴史的前提となったことを理解しているか。

問4 佐藤進一の官司請負制説について説明せよ。

佐藤進一の王朝国家論（中世東西国家論）の分析タームであること、永原慶二・黒田俊雄の中世国家論に対して、朝廷の官吏制度に即して王朝国家を措定した画期的な意義を持つことを理解しているか。

問5 近世日本の貿易と、近代日本の貿易について、共通点と相違点を意識しながら、具体的に論じよ。

→以下のポイントを理解できているかが問われる。

☆近世では、貿易相手と直接取引できる場所は、長崎、対馬、薩摩、松前の「四つの口」に限定されていたのに対し、1850年代以降の「開国」にて、近代ではそれが、長崎、神奈川／横浜、箱館、兵庫／神戸、新潟、大坂、江戸／東京の「七つの口」に変化すること

☆ただし、「開国」したと言っても、貿易が「完全自由」になったのではなく、領事裁判権が撤廃される1899年までは、貿易をできる場所は上記の「七つの口」に限られ、かつ、外国人商人の内地通商権も拒否されていて、「管理貿易」である点では、近世と近代は共通していたこと

☆近世の主要輸出品が、銅や海産物であったのに対し、近代では、19世紀後半は生糸、茶、20世紀前半では生糸、綿織物が主要輸出品となること

問6 近世日本の税制と、近代日本の税制について、共通点と相違点を意識しながら、具体的に論じよ。

→以下のポイントを理解できているかが問われる。

☆近世では、領主ないし幕府に対する納税責任が「村」にあったのに対し、1870年代の地租改正を経て、近代では「個人」に納税責任が移行すること、ただし現実には近代以降も「事実上の村請」が存続していくこと

☆近世では、「現物の米」を領主に納めることが最後まで建前として維持されるのに対し（実際には、近世当初から金銀納となる村も少なくない）、近代では金納が基本となること

☆近世では、（幕府も含めた）個別領主による徴税と、中央政府としての幕府がおこなう徴税（国役普請入用や朝鮮通信使来聘入用などの国役の徴収）が併存していたが、近代では徴税権は基本的に中央政府としての国家に存在し、国家が定める法などにもとづいて、道府県や市町村も、国税とは別に、地方税（道府県税）や市町村税を徴収していたこと

問7 明治の維新政府による近代化政策と、社会における反抗の動きについて、できるだけ詳しく述べよ。

高校の教科書でも概説されている主要な事項で、大学での学びもふまえた確かな学識・素養を持ち合わせていることを見定めるために出題した。

維新政府による近代化政策は多岐にわたるが、近世まで身分制の撤廃（四民平等）、徴兵制や学制の導入、地租改正、殖産興業や士族授産について論述する。そのうえで、社会における反抗の動きとして、徴兵制・学制を負担とみなして嫌った農民層の血税一揆、地租改正反対一揆を挙げて説明する。1873（明治6年）の征韓論政変とも絡んで、不平士族層が起こした反乱（佐賀の乱など）、そして、1877年の西南戦争を取りあげる。また、征韓論政変との関連では、政府から離れた板垣退助に代表される自由民権運動が1880年代にかけて台頭していくことへの言及もほしい。

問8 明治から大正にかけての近代産業の誕生・発展と、社会問題・社会運動の出現について、できるだけ詳しく述べよ。

高校の教科書でも概説されている主要な事項で、大学での学びもふまえた確かな学識・素養を持ち合わせていることを見定めるために出題した。

1880年代後半以降の企業勃興、とくに日清戦争（1894～95年）後における産業革命と資本主義経済の形成を、通貨・金融制度（貨幣法の制定・金本位制の導入）と絡めて論述する。そのなかで、紡績業・製糸業・鉄道業といった軽工業・重工業部門の発達に言及する。また、軽工業・重工業部門だけでなく、農業部門にも目配りしてほしい。

資本主義経済の形成を背景とする社会問題・社会運動としては、工場労働者たちが置かれていた労働環境・待遇に触れたうえで、ストライキの発生、および、アメリカの労働運動の影響をうけた人びと・団体の活動（労働組合期成会の結成など）を論じる。続けて、こうした社会運動を前にした政府の対応（治安警察法や工場法の制定）に言及しながら、1910年代の大戦景気（第一次世界大戦）のもとでの労働・農民運動の展開を説明する。

問9 日中戦争期からアジア・太平洋戦争期にかけての戦時統制と社会・文化、および、人びとの暮らしについて、できるだけ多面的に述べよ。

高校の教科書でも概説されている重要な事項で、大学での学びもふまえた豊かな学識を持ち合わせているかを確認するために出題した。

1937（昭和12）年7月に発生・拡大した日中戦争期から、1941年12月の対米英開戦によるアジア・太平洋戦争期にかけて、「総力戦（国家総動員）」体制が築かれていった。この点を必ずおさえたうえで、言及してほしい具体的な主要事項として、国家総動員法の制定、それにもとづく国民徴用令・価格統制令、切符制・配給制・供出制が挙げられる。さらに、1941年12月以降のアジア・太平洋戦争期の戦局と絡めて、勤労働員・学徒出陣・学童疎開、食糧・物資不足の深刻化と配給制・切符制の実態に言及してほしい。戦時下の大衆文化について、マスメディア（ラジオ・映画）などへの統制・検閲の強化、それと関わる大衆娯楽のありよう、文学・芸術の動向について説明する。

問10 サンフランシスコ講和体制の特徴、および、冷戦期における日本のアジア外交について、知るところを述べよ。

高校の教科書でも概説されている主要な事項で、大学での学びもふまえた豊かな学識を持ち合わせているかを確認するために出題した。

第二次世界大戦で降伏して敗戦国となった日本と戦争状態にあった国々との間で1951（昭和26）年9月に締結されたのが、サンフランシスコ講和（平和）条約である（条約発効は翌年4月）。その特徴として、①冷戦の激化を背景として西側諸国との講和（「単独講和」）になったこと、②日本の賠償責任を大きく軽減したこと（「寛大な講和」）、③領土については朝鮮の独立と台湾・南樺太・千島列島などの放棄を定めたことには必ず言及してほしい。そのうえで、サンフランシスコ講和体制と冷戦のもとでの対アジア外交については、上記②と絡めて東南アジア諸国との関係を、上記③と絡めて朝鮮半島（大韓民国・朝鮮民主主義人民共和国）との関係、台湾（中華民国）と中華人民共和国との関係について論じる。このうち、日韓関係については1965年6月の日韓国交正常化までが、日台・日中関係については1972年9月の日中国交正常化と台湾との断交までが扱われていればよい。

<世界史学>

【問題、解答例、出題意図】

(1) 中国史でいう「六朝文化」について知るところを述べよ。

「六朝」という言葉は何を指すか、後漢時代の豪族の成長、五胡十六国の興亡など歴史的な背景をまじえて説明し、ある程度の文化的特性を記述できていれば 60/100 点。それに加えて、思想・文学・宗教・書道などの代表的な人物や作例についての具体的な言及があれば、精粗に応じて加点する。

(2) 清代の八旗制度について知るところを述べよ。

清代に軍事編制と社会組織を一体として運用するための制度であり、四色の旗と縁取りの有無によって八種に分けられていたこと、満洲・蒙古・漢人の三種があり、それぞれ小単位に編制され、中央と地方に配置されていたことなどの大要が述べられていれば 60/100 点。さらに、その成立から衰亡にいたるまでの歴史的経緯が述べられていれば、記述の精粗に応じて加点する。

(3) ムガル朝の創始者バーブルについて知るところを述べよ。

以下のキーワードを含んで、適切に解説されているかどうかで評価する：ティムール朝、シャイバーン朝、モグール・ウルス、フェルガーナ、カーブル、ヘラート、インド、パーニーパットの戦い、ミールザー・ハイダル、フマーユーン、アクバル

(4) ソグド人の信仰していた宗教・文化について知るところを述べよ。

以下のキーワードを含んで、適切に解説されているかどうかで評価する：ソグド語、ゾロアスター教、納骨器、キリスト教、東方教会、シリア文字、仏教、マニ教、マニ文字、江南、日本、改宗、翻訳、聖典、壁画、銀器、織物

(5) 古典期アテナイについて知るところを述べよ。

出題意図 紀元前 6－5 世紀のアテナイ民主政の発展期において、ソロン、ペイシストラトス、クレイステネス、ペリクレスらの政治家の果たした役割を述べるができているか。ペルシア戦争でアテナイがどのような役割を果たし、またそれがアテナイ社会にどのような変化をもたらしたかを述べるができているか。ペロポネソス戦争がギリシアやアテナイにどのような転機をもたらせたか、また前 4 世紀におけるアテナイ民主政の法制的発展について知見を有しているか。以上を採点ポイントとして出題した。

(6) ビザンツ帝国について知るところを述べよ。

出題意図 ビザンツ帝国とは 330 年に建設されたコンスタンティノーブルを首都とする、キリスト教化したローマ帝国のことであると理解できているか。それが 1453 年のオスマン帝国による首都攻略まで持続していたことを理解しているか。また、ビザンツの影響を受けて今日の東欧正教圏や中東の伝統的キリスト教諸社会が形成されたことに知見があるか。ゲルマン人侵入後の西欧中世の騎士男性のモラルとは別個の、文人官僚のモラルをローマから継承し、女性皇帝や文筆家もいたことを知っているか。以上がポイントとなる。

(7) 16 世紀後半の独立戦争期から 18 世紀初頭にかけてのオランダの歴史について説明せよ。

時代順に、以下の項目が簡潔に説明されていることを求めている。

- ①ハプスブルク家フェリペ 2 世統治下のオランダの状況（カトリック支配の強化とカルヴァン主義の広がり、スペイン統治への反発など）
- ②「独立戦争」の開始
- ③ユトレヒト同盟の結成から 1581 年の北部独立宣言へ至る経緯
- ④17 世紀に入ってからのおランダの国際商業での興隆と繁栄（VOC を軸にしたアジア交易の発展や英蘭戦争を含めて）
- ⑤名誉革命に伴うイギリスとの同君連合成立、対外関係においてフランスの脅威への対応が焦点した経緯

(8) 北大西洋条約機構（NATO）について、その成立から 21 世紀初頭までの展開を説明せよ。

時代順に、以下の項目が簡潔に説明されていることを求めている。

- ①1947～48 年にかけてのヨーロッパにおける東西関係緊張／北大西洋条約の締結経緯と条約の内容
- ②1950 年代初頭の朝鮮戦争など東西冷戦の世界拡大・激化とそれに伴う NATO の強化／1955 年の西ドイツ NATO 加盟とワルシャワ条約機構の成立
- ③西側核戦略と NATO との関係
- ④冷戦終結／NATO の東方拡大（統一ドイツと NATO との関係を含む）／1990 年代のボスニア、コソヴォ紛争への関与など冷戦時代からの NATO の役割変化
*なお、2000 年代に入って本格化した西側諸国とロシアとの大国関係の緊張化における NATO の存在については言及することを求めない。

(9) 19 世紀の日米交流史について、文化・外交・経済のいずれかの側面に焦点を当てて論じなさい。

- ・19 世紀の日米交流史について事実を踏まえて、関心のある側面を中心に史料などを使用した実証的研究を反映して論じているところを評価する。
- ・19 世紀の日米交流史について、受験者の関心あるテーマについて、掘り下げて専門性の高い観点から論じている場合加点する。

(10) モンロー主義について以下の言葉を入れて論じなさい。

（孤立主義、ドンロー主義、米国の中南米政策）

- ・モンロー主義とその政策が、なぜどのように始まったのかについて、基本的な事実を踏まえて論じているところを評価する。
- ・現在アメリカの中南米政策を、歴史的視野で論ずることができれば加点する。
- ・モンロー主義に関連づけて、アメリカの外交政策の特徴について歴史的視野から論ずることができれば加点する。

<考古学>

【問題、解答例、出題意図】

1. 考古学における墓制について、具体的な遺跡・遺構・遺物を取り上げて論じなさい。

(1) 出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査に関わる際に必要となる、資料をもとに考えをまとめる力を確認することを目的とする。そして考古学の基本的なテーマである墓制についての理解を確かめるものである。人がどのように死者を送り、どのような葬儀を行ったかは、その時代の社会や人々の考え方を知る手がかりとなる。解答にあたっては、具体的な遺跡や遺物をあげ、それらを通して墓制の意味を自分なりに考察する力が求められる。単に遺物や遺構などを説明するだけでなく、その背景にある社会構造などにも触れ、筋道の通った論述ができるかを評価する。

(2) 解答例

本問の解答は、具体的に時代を決め、具体的な遺跡や遺構、遺物を取り上げて論じ、一つの時代や複数の時代にわたって論じてよい。

何が大事か：葬送は、亡くなった人をどのように埋葬したかという行為そのものであり、儀礼はその埋葬を支える社会的・宗教的な行い全体を指す。したがって内容については、「葬送」と「儀礼」を区別して考え、かつ両者の関係について考えて論じることが大切である。

書き方の要点：たとえば古墳時代を取り上げる場合には、古墳の形や副葬品をただ並べて説明するのではなく、それらが当時の人々の考え方や社会のしくみをどのように表しているかを、理解し考えて書くことが求められる。また、時期や地域によって葬送の形がどう変わったか、その背景にある社会の変化とあわせて説明すると、より深い内容になる。考古学では「モノから社会を読み解く」ことが基本であり、実際の遺物や遺跡を根拠に、筋の通った自分の考察を示すことが重要である。知識の多さよりも、具体的資料を使ってしっかりと考える力が評価の中心となる。

問2 次の語群①～⑦のうちから一つ選び、論じなさい。

- | | | |
|--------|--------|----------|
| ①水場遺構 | ②円筒埴輪 | ③東北産黒色土器 |
| ④ガラス埴埴 | ⑤皇朝十二銭 | ⑥野面積 |

(1) 出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査に関わる際に必要となる考古学の基礎的知識のなかで、様々な時代や地域の遺物と遺構に関しての理解力を評価することを狙いとする。そして、特定の考古学用語を通して、受験者が遺物・遺構などを辞書的な用語の説明だけでなく、その遺物・遺構を当時の社会的・歴史的文脈の中で理解することを目的とするものである。提示された語群はいずれも日本考古学における主要な遺物・遺構であり、時代・地域・文化的背景などを総合的に考察する必要がある。

(2) 解答例

問1—①解答例

水場遺構は縄文時代の後期から晩期にかけて堅果類の加工をする施設であり、小河川に木組みの水槽などを設置し、そこでアク抜き作業を行った。解答では、水場遺構が検出された具体的な遺跡を挙げ、堅果類の採集活動との関係、アク抜きの方法を通して当時の社会的背景を論じることが求められる。何が大事か：まず水場遺構が縄文時代のものであり、かつ採取活動と関連した重要な生業活動に関する遺構であることを読み取ることが重要である。縄文時代には、ドングリなど堅果類を採集した後、

トチノキなどアク抜きが必要なものは水場でアク抜き作業を行った。トチノキなどはアク抜きが非常に難しく、水槽のような木組み遺構などを使い、アク抜き作業をおこなった。そして重要なのは、こうした水場遺構でのドングリ類のアク抜き作業が、複数の集落の人々によって共同で行われた点である。縄文時代の中期末頃に気候の冷涼化がおり、それまでの大規模な遺跡が終焉を迎え小規模な集落となり周辺に分散した。その後、後期以降に再び採集活動と加工作業を行うにあたり、近隣に分散した小規模集落の人々が集合し、共同して採集と加工作業を行った。こうした当時の社会との関係も焦点となる。

書き方の要点：たとえば、「栃木県小山市寺野東遺跡では多数の木組みの水場遺構などが低湿地で発見された。そして、規模の大きさからみて縄文時代後期から晩期にかけて周辺の集落の人々が共同で堅果類の採集と加工をしたことが明らかとなった」といったように、具体的事例と社会的背景を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問2—②解答例

円筒埴輪は、弥生時代終わりごろの特殊器台が巨大化し、古墳時代前期以降に円筒埴輪に変化し古墳に樹立された。また、埴輪は日本列島のかなり広い範囲の古墳に樹立された。埴輪を有する古墳は日本列島の広範囲に広がっており、古墳の年代を考える重要な資料である。このように円筒埴輪に関してはさまざまな解答例が考えられる。したがって、解答例では円筒埴輪が出土した古墳など具体的遺跡を挙げ、その成立と分布、地域性、製作技術などさまざまな課題のなかから何を述べるかを考え、論じることが求められる。

何が大事か：円筒埴輪の形や製作技術を説明するだけでなく、円筒埴輪が社会の中でどのような役割を果たしたかを考えることが重要である。円筒埴輪を有する古墳は、地方の小規模古墳では埴輪も小型であるが、畿内の大型古墳では円筒埴輪も巨大である。そして巨大古墳が多く見られる5世紀には須恵器と同じように登窯で大量に生産されるなど、古墳の階層性や、社会構造の変化との関係を読み取る姿勢が求められる。

書き方の要点：たとえば、「古墳時代中期の畿内の大型古墳では、朝鮮半島系の技術を受けた登窯で大型の埴輪を大量に生産し、その技術は畿内から各地へ広がった。その結果、埴輪を用いる祭祀が日本列島の広範囲に広がった」といったように、具体的事例と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問2—③解答例

東北産黒色土器とは、関東から東北地方にかけて、6～8世紀にかけての土師器の表面を緻密にするため、内面に炭素を吸着させて黒色にした土器である。瓦器とは違って、窯を用いずに焼き上げている。内面のみを黒色化するA類と、内外面を黒色化するB類があるが、多くはA類である。内面にヘラミガキを施し、口縁部の外面をヨコナデした後、ヘラミガキを施す。底部外面をヘラケズリで調整したものが多くある。

解答では、東北産黒色土器の形態的・年代的特徴を指摘し、この土器が出土する背景を論じることが求められる。

何が大事か：内外面に炭素を吸着させる土器ではあるが、8世紀後半以降の黒色土器や瓦器とは異なり、6～8世紀代の関東から東北地域にかけての蝦夷の地で作られた土器であることを指摘することが重要である。7世紀代では、畿内の一部でもわずかに出土しており、蝦夷が都にもたらした土器といえる。特に、宮城県郡山遺跡と飛鳥石神遺跡から出土することから、蝦夷饗応との関連性を説くことも重要である。

書き方の要点：たとえば、「東北産黒色土器が出土する仙台市の郡山遺跡と飛鳥石神遺跡では、いずれも方形池が検出されており、蝦夷の饗応に使用された土器・遺構と推定されている」といったように、具体的事例と社会的背景を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問2－④解答例

ガラス罎塼とは、原材料（鉍石）から溶解してガラスを生産する罎塼である。7～8世紀のガラス罎塼は、砲弾形をしており、外面を格子状のタタキで成形している。内面には、溶解したガラス質がべっとりと付着している場合が多い。日本では、弥生時代や古墳時代の遺跡から多くのガラス製品が出土しているが、これらは輸入品のガラス材料やガラス製品を再溶解させてガラス製品を製作していた。しかし、7世紀になると方鉛鉍や石英などの原材料から、ガラスを生産するようになる。主に、古墳時代までは、ソーダガラスであり、7世紀の国産ガラスでは鉛ガラスが出現する。

解答では、ガラス罎塼の形態的・年代的特徴を指摘し、国産ガラスの生産やガラス罎塼が出土する背景を論じることが求められる。

何が大事か：ガラス罎塼の形状を解説し、古墳時代までの生産方法と異なることを指摘することが重要である。国産ガラスの生産開始が、飛鳥池工房遺跡によってはじめて解明されたことや、百済に類似のガラス罎塼があることから、技術の共通性を指摘することも重要である。

書き方の要点：たとえば、「古墳時代までのガラス生産は、輸入のガラス素材や製品を再溶解するのに対して、飛鳥池工房で出土したガラス罎塼では、原料からガラスを生産していることが明らかとなった。類似のガラス罎塼が百済からも出土していることから、渡来系技術の導入が考えられる」といったように、具体的事例と社会的背景を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問2－⑤解答例

皇朝十二銭とは、708（和銅元）年の和同開珎の発行から958（天徳2）年の乾元大宝に至るまで、律令国家（朝廷）によって铸造・発行された12種類の公铸銅銭の総称である。主に唐の開元通宝にならった円形方孔の形状をもつ。初期の和同開珎などに比べ、8世紀末以降は産銅量の減少等に伴って小型化・軽量化が進み、9世紀末以降には鉛を多く含む粗悪な銭貨もみられるようになる。10世紀には銭文が不鮮明な銭も流通するなど、次第に品質が低下した。

何が大事か：単に12種類の名称や年代を列挙するのではなく、律令国家による貨幣制度の導入や国家事業の運営と、実際の出土・流通状況の実態を正確に理解することが重要である。奈良文化財研究所の集計等で全国800件近くの遺跡から和同開珎が出土している通り、出土事例は地方へも広がりをもつ。しかしその出土傾向は、都城・官衙・寺院・交通路（駅家等）と強く結びついており、国家的な行政的・交易的文脈において強く流通した性格を読み取ることが求められる。また、後期の新銭発行による品質低下を経て、10～12世紀にかけて現物貨幣（絹・布・米）が再び主要な交換手段となっていく推移も視野に入れて整理することが重要である。

書き方の要点：たとえば、「708年の和同開珎に始まる皇朝十二銭は、都城造営等の支払手段や律令国家の威信を示すために発行された。初期は良好な質を保ったが、産銅量の減少や技術的要因から軽量化が進み、後期には鉛含有率が増加するなど品質低下が顕著となった出土は全国に及ぶものの、その分布には地域差があり、都城・官衙・寺院など国家制度と関係の深い遺跡からの出土も目立つ。また、出土銭には貨幣としての流通だけでなく、祭祀や埋納など多様な使用形態が含まれることにも注意する必要がある。

官衙や寺院、官道沿いなどに集中的に分布しており、国家機構や交通網と深く結びついて流通した」といったように、具体的事例（出土傾向・品質の変化）と社会的背景を結びつけて正確に論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問2－⑥解答例

野面積みとは、自然石をほとんど加工せず、その形状を生かして積み上げる石垣の構築方法である。自然石を用いるため築石の間には隙間が生じ、必要に応じて間詰石を入れ、飼石によって築石を安定させる。また、近世城郭の石垣では築石の背面に裏込石（栗石）を充填し、排水性を確保するとともに石垣全体の安定を図った。石材の接合部分を加工する打込接や、さらに精緻に加工する切込接とは、石材の加工度によって区別される。

城郭への石垣の導入は15世紀末から16世紀に進み、織豊期には城郭全体に石垣を大規模に用いるようになった。特に安土城では自然石を巧みに用いた石垣が多数築かれ、高石垣を含む石垣によって曲輪を構成する近世城郭の姿が明確になる。こうした石垣の発達には、石材の選択や配置、勾配、裏込石、隅角部などを組み合わせた専門的な施工技術が必要であった。石垣を多用した大規模な城郭は、防御や造成の機能だけでなく、天主や瓦葺建物などとともに支配者の権力を視覚的に示す役割を果たし、織田・豊臣政権の形成とともに各地へ展開していった。

何が大事か：野面積みを単なる素朴な「初期の技法」として捉えるのではなく、石材の加工度に応じた分類（野面積み・打込接・切込接）の一つとして位置づけ、その構造要素（間詰石・飼石・裏込石）の機能を正確に理解することが重要である。戦国時代末期から織豊期にかけて、安土城跡などに代表されるように城郭全体に石垣を大規模に多用する構造が急速に発達した。近江の穴太衆をはじめとする専門的な石工集団の活動とともに、築石の配置や裏込石などの総合的な施工技術が展開したことで、そして石垣や天主を備えた大規模城郭が、単なる軍事施設にとどまらず天下人の権力を視覚的に誇示する「魅せる城」として機能したという社会的背景を結びつけて論じる姿勢が求められる。

書き方の要点：たとえば、「野面積みは加工しない自然石を用いる技法で、裏込石による排水性や間詰石・飼石を用いた安定化など総合的な技術によって構築される。織豊期以降、安土城跡などにみられるように石垣を多用する城郭構造が急速に普及し、専門的な石工集団によって大規模な石垣が築かれた。こうした石垣の多用は防衛機能の向上とともに、支配者の権力を誇示する近世城郭の成立という社会的変化を象徴している」といったように、具体的事例（構造要素・安土城跡・石工集団）と社会的意味を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

3. 次の語群①～⑦のうちから一つの遺跡を選び、論じなさい。

- | | | |
|-------|----------|---------|
| ①大森貝塚 | ②椿井大塚山古墳 | ③中尾山古墳 |
| ④豊楽殿 | ⑤平城山瓦窯群 | ⑥旧大乘院庭園 |

（1）出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財や遺跡の調査に関わる際に必要となる考古学の基礎的知識のなかで、様々な時代や地域の遺跡に関しての理解力を評価することを狙いとする。そして、特定の考古学用語を通して、受験者が遺物・遺構などを辞書的な用語の説明だけでなく、その遺跡を当時の社会的・歴史的文脈の中で理解することを目的とするものである。提示された語群はいずれも日本考古学における主要な遺跡であり、時代・地域・文化的背景を総合的に考察する必要がある。

（2）解答例

問3－①解答例

大森貝塚（東京都品川区）は、1877年にアメリカ人のエドワード・S・モースが発見・発掘した縄文時代の貝塚である。縄文時代後期から晩期の多数の土器や骨角器などの遺物が出土し、日本における近代考古学の出発点となった遺跡である。大森貝塚は、日本の近代考古学の出発点であり、日本の先史時代、後に縄文時代と呼ばれる時代の研究のはじまりでもある。これらの基本的な知識と、この遺跡の発掘調査の歴史的意義を考察することが求められる。

何が大事か：大森貝塚の特徴を単に列挙するのではなく、そこから縄文時代研究のどのような点のはじまりとなったかを読み取ることが重要である。また、大森貝塚の発掘調査報告書は、日本における最初の考古学の科学的な報告書である。この報告書には、その後の日本の縄文時代をはじめとする石器時代研究の基礎が詰まっており、現在にいたる日本の考古学の歴史と発展過程を考える上で重要な遺跡である。

書き方の要点：たとえば、「エドワード・S・モースによる大森貝塚の発掘調査の実施と報告書の刊行は、日本における科学的な近代考古学の出発点となり、その後の縄文時代などの研究に大きな影響を与えた」といったように、大森貝塚の果たした役割を論じる。単なる知識の列挙ではなく、大森貝塚に対する自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問3—②解答例

椿井大塚山古墳は京都府木津川市に所在する古墳時代前期初頭に築造された前方後円墳である。1953年の調査で多数の三角縁神獣鏡や鉄器などが出土した。とくに本古墳出土の三角縁神獣鏡の研究により、同一の鋳型（范）で鋳造された鏡、すなわち同范鏡の存在が明らかとなり、本古墳と同范関係にある鏡を副葬する各地の首長墓との関係が、古墳時代前半の政治的関係を考える上で重要な研究課題を提示した。解答では、椿井大塚山古墳に関する基本的な知識と、この古墳から出土した遺物歴史的意義を考察することが求められる。

何が大事か：椿井大塚山古墳の特徴を単に列挙するのではなく、そこから古墳時代研究における位置付けを考えることが重要である。また、椿井大塚山古墳の墳丘の形は、大和の初期の大型前方後円墳である箸墓古墳と同型である点も重要である。すなわち、椿井大塚山古墳は、大和につぐ大量の三角縁神獣鏡の出土と箸墓古墳と同型の墳丘の形など、大和初期政権を考える上で重要な古墳である。この2つの点は、古墳時代のはじまりと社会を考える重要な手がかりとなる。

書き方の要点：たとえば、「椿井大塚山古墳は、墳丘が箸墓古墳と同型であり、また大和以外で最も多数の三角縁神獣鏡を出土した。これは、椿井大塚山古墳が古墳時代の初期における畿内を中心とした社会の中で重要な位置にあったことを示す」といったように、椿井大塚山古墳の果たした役割を論じる。単なる知識の列挙ではなく、椿井大塚山古墳に対する自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問3—③解答例

奈良県明日香村にある中尾山古墳は、版築によって築造された三段築成の八角墳である。下二段には、石積みが施されるが、最上段には葺石はない、また、沓石が出土することから、頂部に複数配置されていたことが考えられる。凝灰岩（竜山石）と石英閃緑岩を組み合わせた石室は内面に朱が塗られる。石室内寸は90 cmしかないので、火葬骨臓器が安置されていたと推定される。飛鳥時代の八角墳は、天皇陵に限られることや、火葬されていることから、真の文武天皇陵と考えられている。これらの基本的な知識と、この遺跡の歴史的意義を考察することが求められる。

何が大事か：中尾山古墳の特徴を単に列挙するのではなく、そこから終末期古墳、とくに7世紀の天皇陵がどのように変化するかを読み取ることが重要である。また、八角墳成立の意義についても言及する。

書き方の要点：たとえば、「中尾山古墳は、飛鳥時代の天皇陵特有の八角墳であり、石室構造から、火葬骨臓器が安置されることから、707年に火葬された真の文武天皇陵の可能性が高い」といったように、中尾山古墳の考古学的成果と、『続日本紀』などの史料を重ねて論じる。単なる知識の列挙ではなく、中尾山古墳に対する自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問3—④解答例

豊楽殿は、平安宮朝堂院の西隣接地にある豊楽院の正殿である。建物は、東西9間、南北4間の礎石建物で、屋根には緑釉瓦が葺かれていた。元日節会、新嘗祭・大嘗祭の節会、外国使節入朝時等の国家的饗宴が行われた。複数回にわたって焼失したが、康平6(1063)年以後は再建されることはなかった。これらの基本的な知識と、この遺跡の歴史的意義を考察することが求められる。

何が大事か：豊楽殿の建築的特徴を単に列挙するのではなく、そこから豊楽殿の性格や古代都城の宮殿変遷を読み取ることが重要である。また、発掘調査で判明した考古学的成果と、史料にみられる成果を重ね合わせてみることができ、することも重要である。

書き方の要点：たとえば、「豊楽殿は、宮殿中枢部の朝堂院の西隣接地にある豊楽院の正殿であり、平城宮における中央区朝堂院の配置と類似することから、奈良時代後半の中央区朝堂院からの系譜が読み取れる」といったように、古代宮城の変遷過程の中に位置づけるなど、単なる知識の列挙ではなく、豊楽殿に対する自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問3—⑤解答例

平城山瓦窯群は、奈良時代を中心に、平城京北方の奈良山（平城山）丘陵に営まれた官営の造瓦窯群であり、平城宮・京や寺院の造営に必要な大量の瓦を生産した一大生産拠点である。歌姫・音如ヶ谷・市坂・梅谷・鹿背山・中山などの瓦窯跡からなり、このうち中山瓦窯は奈良時代初頭から前半に操業し、平城宮第一次大極殿院などに瓦を供給していた。窯の構造には斜面を利用した地下式・半地下式の窖窯のほか平窯もみられ、時期や造営組織に応じた構造の選択がなされた。各瓦窯から出土した軒瓦と平城宮・京など消費地出土瓦との同范関係や、刻印・篋書きなどの文字・記号をもつ瓦の分析によって、瓦の生産年代や供給先、造瓦工人の編成や生産管理のあり方を復元する研究が進められてきた。平城山瓦窯群は、平城京の造営を支えた瓦の大量生産体制を示すとともに、律令国家による官営手工業の組織や生産・供給体制を考えるうえで重要な遺跡である。

何が大事か：単に「平城京の近くで瓦を焼いた窯跡」と説明するだけでなく、平城京の造営に伴う膨大な瓦需要に対して、国家が大規模な生産・供給体制を整えていたことを理解することが重要である。とくに、中山瓦窯をはじめとする平城山瓦窯群では窖窯と平窯の双方が確認されており、瓦の大量生産に応える構造上の工夫や、時期・造営組織に応じた窯体構造の展開を読み取ることができる。また、軒瓦の同范関係から生産地と供給先を結びつけることができ、刻印や篋書きをもつ文字瓦・記号瓦は、工人の編成や瓦の生産・供給関係を検討する手がかりとなる。このような考古資料から、平城宮・京という大規模な都城を支えた官営造瓦体制と、律令国家による生産組織のあり方を考える姿勢が求められる。

書き方の要点：たとえば、「平城山瓦窯群は、平城京の造営に必要な大量の瓦を生産するため、平城京北方の丘陵地帯に設けられた官営の造瓦窯群である。中山瓦窯では平城宮第一次大極殿院に供給された瓦が生産され、窖窯のほか平窯構造の導入も確認されている。軒瓦の同范関係や文字・記号をもつ瓦から、生産地と供給先、工人の編成や生産管理の実態を考えることができる。この瓦窯群の展開は、平城京という大規模な都城の建設を支える生産体制が、律令国家のもとで組織的に整備されていたことを示している」といったように、具体的事例（中山瓦窯・窯体構造・軒瓦・文字瓦）と社会的背景を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

問3—⑥解答例

旧大乘院庭園は、興福寺の門跡寺院であった大乘院の御殿に付属する庭園で、現在は国の名勝に指定されている。大乘院は1180年の平重衡による南都焼き討ちの後、現在地へ移転した。1451年の徳政一揆による焼失後、門跡尋尊によって御殿と庭園の復興が進められ、1463年には足利義政に仕えた作庭の名手善阿弥に作庭が委ねられた。善阿弥親子による整備を経て、東の大池に中島を設けて橋を架け、西側に小池を配するなど変化に富んだ庭園が形成され、將軍足利義政や公家も訪れる南都随一の名園となった。明治初年に大乘院は廃絶し、庭園も大きく改変されたが、1995年以降の奈良文化財研究所による発掘調査と、『大乘院寺社雑事記』などの文献資料、「大乘院四季真景図」などの絵図を総合して庭園遺構の構造が明らかにされ、保存・復原整備が進められた。旧大乘院庭園は、中世の門跡寺院における庭園文化を示すとともに、発掘遺構・文献・絵図を総合して歴史的庭園の姿を解明する庭園考古学の重要な事例である。

何が大事か：単に「室町時代の有名な庭園」と説明するだけでなく、興福寺の門跡寺院である大乘院の政治的・文化的性格と、室町幕府の文化を担った善阿弥が庭園整備に関与したことを結びつけて理解することが重要である。とくに『大乘院寺社雑事記』によって尋尊や善阿弥親子による庭園整備の過程を具体的に知ることができる点は、中世庭園として重要である。また、庭園が失われたり改変された後も、発掘調査で確認された園池・中島・護岸・橋などの遺構を、「大乘院四季真景図」などの絵図や文献資料と比較することによって、庭園の空間構造や変遷を復元的に検討できる。考古資料だけでなく文献・絵図を組み合わせることで、中世庭園の実態や門跡寺院の文化的役割を明らかにできることを理解する姿勢が求められる。

書き方の要点：たとえば、「旧大乘院庭園は、興福寺門跡大乘院に営まれた庭園で、1451年の焼失後、門跡尋尊による復興のなかで善阿弥親子が作庭に関与した。東の大池や中島、西側の小池などからなる庭園は、足利義政や公家も訪れる南都随一の名園となった。近代には大乘院の廃絶とともに庭園も改変されたが、継続的な発掘調査によって園池や護岸などの遺構が検出され、『大乘院寺社雑事記』や『大乘院四季真景図』などの文献・絵図と照合することで往時の庭園の姿が明らかにされた。この庭園は、中世門跡寺院の文化や室町時代の作庭技術を示すとともに、考古資料・文献・絵図を総合して歴史的庭園を復元的に研究する重要な事例である」といったように、具体的事例（尋尊・善阿弥・園池遺構・大乘院四季真景図）と社会的・学術的背景を結びつけて論じる。単なる知識の列挙ではなく、考古資料をもとに自らの理解を筋道立てて示すことが評価の中心となる。

4. 現在、文化財を地域振興・観光振興に活用した取り組みとして「日本遺産」がある。現時点で日本遺産に認定されている数を答えなさい。また、その中の1つを選び、認定名称と認定年度、内容、利活用状況について、詳細に記しなさい。

（1）出題意図

本問は、修士論文の作成、そして文化財の調査・保護・活用に関わる際に必要となる考えをまとめる力を確認することを目的とする。特に、文化財の活用事例についての理解を確かめるものである。文化財をまもり・継承するために、どのように活用していくかの考え方を知る手がかりとなる。解答にあたっては、104件の「日本遺産」をどの程度知識として理解しているか、そして、どのように活用しているのかを、今後、文化財に関わる専門職になるにあたっての、考え方を筋道の通った論述ができるかを評価する。

（２）解答例

本問の解答は、具体的に認定されている日本遺産をとりあげ、その内容や認定時期、活動状況を論じる。

何が大事か：日本遺産は指定・未指定を含めて、文化財をパッケージ化して、地域振興・観光振興に資するものである。文化財の活用が中心であり、保護を目的とする世界遺産とはコンセプトが異なる。この点を踏まえて論じることが大切である。

書き方の要点：たとえば飛鳥の日本遺産「日本国創成のとき」を取り上げる場合には、日本遺産のストーリーやコンセプトを説明するだけでなく、この日本遺産を活用するための活動や施策なども解説し、どのような効果や課題があったのかなど、筋の通った説明力を示すことが重要である。文化財の調査・研究だけでなく、保護・活用についても考える力が評価の中心となる。

<美術工芸史学>

【問題、解答例、出題意図】

1. 日本美術史上における仏像、神像あるいは肖像の一作品を取りあげ、その様式と形式の特徴を示しなさい。さらに日本美術史における歴史的な位置づけについて述べなさい。記述にあたっては作品名と所蔵者名を最初に記すこと。

東大寺の僧形八幡菩薩像をあげる。剃髪し袈裟を着た僧侶の姿で表される八幡神の像は、本地垂迹説に基づき、八幡神が「八幡大菩薩」として仏法を守護する姿を表現している。

建仁元年（1201）に、仏師・快慶が制作した像が最も有名である。写実的な造像と、美しい色彩が残る。

従来の神像に見られる浅い彫りによる素朴な表現とは異なり、仏師としての経験と高い木彫技術を持つ快慶が、神としての威厳と僧侶の相貌としての写実性が両立する希有な作例である。

2. 日本美術における唐風と和風について、具体的事例をあげて、形式の違い、表現の違いを論じなさい。

奈良時代は、唐文化の影響を強く受けた絵画が制作された。代表例に「鳥毛立女図屏風」がある。日本で制作されたものだが、唐風の人物表現や技法を用い、正倉院宝物として伝わるものである。

「刺繍釈迦如來說法図」や「両界曼荼羅」（西院曼荼羅）などの仏教絵画は、グプタ朝文化に影響を受けた唐の文化と深く関係する。

唐の滅亡後、文化の情報伝達が途絶え、和様化が進行する。唐文化を受容した倭絵は唐絵との区別が不明確であり、10世紀以降は中国風の主題と和風の主題を主に服飾上の区別によって描き分けていた。

平安時代に制作された平等院鳳凰堂「九品来迎図」は、仏教思想を描く中に、日本の四季の風景を描いており、和様の絵画が発展していることがうかがわれる。

平安時代の絵画は様式的には、唐代絵画を受容しているが、その模倣にとどまらない。濃彩の上に、さらに金銀の加飾などもふんだんに用いる倭絵（やまとえ）の技法が用いられている。

3. 日本美術における図像の転写とその変容を示す事例について、具体的作例を通じて述べなさい。

和歌山県紀の川市平野林ヶ峰の観音寺に伝来した菩薩形坐像は、像高 21.7 cm、総高 25.9 cm の小像で、檜の一材から蓮肉部を含んで像の全てを彫り出し、漆箔仕上げとする。高く太く髻を結い上げ、根元に銅製装飾を付けて、垂髪を遊離部まで共木で造り、冠縷を背面に垂らしている。

やや角張った輪郭や、胸から腹への起伏が抑制された体型、脚部の前への張り出しの小さいようすなど、九世紀中ごろの造像である京都府・安祥寺五智如来坐像（国宝）のうち大日如来坐像と類似し、両脚部にくっきりと表された弾力のある衣紋は、同じころの作である大阪府・観心寺伝弥勒菩薩坐像（重要文化財）などと近い。

髻の根元に取り付けられた銅製装飾は、現存作例では他に類例がないが、曼荼羅図像の菩薩中に同様の表現が多く見られる。冠縷を背面に垂らす表現や、首に掛かる真円の鐙とその飾りの意匠なども含めて、曼荼羅図像の忠実な立体化への取り組みがみられる。一方で台座蓮肉部から膝頭が出ないことなど、初期密教彫像のなかではその表現に穏健さが加わり、整いある像容に変化している。図像を元にしながらも、立体化の過程で細部の形状を調整し、像容を整えていく工程が、9世紀半ばごろにおいて生じていることがうかがえる。

4. 尾形光琳筆「燕子花図屏風」（根津美術館蔵）について、画題、構図、技法など複数の観点から論じなさい。あわせて尾形光琳の画業について知るところを記しなさい。

「燕子花図屏風」（根津美術館蔵）は尾形光琳の代表作である。

六曲一双金地屏風に、燕子花が群生する様が描かれている。メトロポリタン美術館蔵「八橋図」と構図が類似することから、『伊勢物語』の「八橋」の場面を題材にしていると考えられる。

ただし、メトロポリタン美術館蔵本とは異なり、橋は描かれておらず、燕子花の群生のみが描かれている。燕子花は同じ形が繰り返されるが、パターン化はされておらず、それぞれの花卉はふっくらと描かれる上に、根元に高低差をつけ、背景は金地のみで、水辺や岸が描かれていないにもかかわらず、自然の景色であるかのような印象を与える。

群青と緑青の色彩面だけで形態を捉えており、輪郭線を用いない。

作者の尾形光琳は、江戸時代中期を代表する絵師であり、工芸家としても多才な足跡を残した。京都の高級呉服商「雁金屋」に生まれ、広い教養を身につけ、本阿弥光悦や俵屋宗達の様式を再発見し、私淑した。意匠性に富む様式であるが、「中村内蔵助像」のような肖像画にいても高い技量を示している。また絵画のみならず、「八橋蒔絵硯箱」のような漆工、「冬木小袖」のような着物図案も手がけた。弟の尾形乾山の焼く陶芸作品の図案も描いた。後に酒井抱一らが関心を寄せ、その様式を継承した。

<保存修復学>

【問題、解答例、出題意図】

問1.文化財の調査、保存、活用について、具体的な事例を取り上げて、その方法や課題について述べなさい。

【出題意図】

文化財の保護に関して保存科学の立場から自分がどのように関わるのかを問う。

【解答例】

対象となる文化財の違い（動産、不動産あるいは有形、無形）によって、調査方法やアプローチが異なる。その点を十分に理解し、各種の文化財に応じた調査、保存、活用の各場面における体制、方法、課題をできるだけ具体的に示すことを求める。

問2.次の文化財に関する用語から三つを選び、それぞれ200字程度で説明しなさい。

- ①蛍光 X 線分析
- ②総合的有害生物管理（IPM）
- ③文化財防災センター
- ④文化財保存活用地域計画
- ⑤X 線 CT
- ⑥国宝修理装填師連盟
- ⑦赤外線カメラ
- ⑧トレハロース処理法

【出題意図】

保存科学や文化財全般に関する基本的な知識を問う。

【解答例】

各用語に関して、基本的な内容を示すとともに、調査機器や保存処理方法の用語については、具体例にも言及することが望ましい。

問3.文化財を劣化させる要因である温湿度、光、空気質、生物、災害の中から一つを取り上げ、それに対する保存対策について説明しなさい。

【出題意図】

保存科学に関する基本的な知識を問う。

【解答例】

各要因について、基本的な劣化の要因や原理を示したうえで、保存対策の具体例をできるだけ詳細に示すことを求める。

二〇二六年度

奈良大学大学院 春季入学試験

文学研究科 文化財史料学専攻（博士前期）

試験問題（文献史料）

【解答に関する注意】

- ①

一

 ～

五

 の中から1題を選択して解答せよ。
- ② 漢和辞典の持ち込み可（電子辞書は不可）。

【問題】次の史料は、『続日本紀』の養老四年（七二〇）の記事の一部である。これについて、次の各問に答えよ

（一）全文を漢字・仮名混じり文に書きくたせ。漢字は常用体、仮名は歴史的仮名遣いによることとし、文意が明確に取れるように適宜句読点を施せ。

（二）史料中に見える養老令に規定のある官司・官職名を、原文のまま全て抜き出せ。

壬午令都下冊八寺一日一夜讀藥師經免官戸十一人爲良除奴婢一十人從官戸爲救右大臣病也壬辰勅征隼人持節將軍大伴宿祢旅人宜且入京但副將軍已下者隼人未平宜留而屯焉癸未詔省治部奏授公驗僧尼多有濫吹唯成學業者一十五人宜授公驗自餘停之是日右大臣正二位藤原朝臣不比尋薨帝深悼惜焉爲之廢朝舉哀內寢特有優勅吊賻之礼異于群臣大臣近江朝內大臣大織冠鎌足之第二子也甲申詔以舍人親王爲知太政官事新田部親王爲知五衛及授刀舍人事丁亥詔諸請內印自今以後應作兩本一本進內一本施行九月庚戌朔日有蝕之辛未諸國申官公文始乘驛言上丁丑陸奥國奏言蝦夷反乱殺按察使正五位下上毛野朝臣廣人戊寅以播磨按察使正四位下多治比真人縣守爲持節征夷將軍左京亮從五位下下毛野朝臣石代爲副將軍軍監三人軍曹二人以從五位下阿倍朝臣駿河爲持節鎮狄將軍軍監二人軍曹二人即日授節刀

□次の史料（『吉川文書』所収の羽柴秀長書状）を読み下し、その現代語訳を記せ。

猶以隆景（小早川）一所ニ湯治候、朝夕閑談仕、御噂耳候、返々

杳々使者入魂不浅候、以上、

就下国態之使者、殊ニ太刀・馬至来、〔到〕每事懇切難申尽候、

仍今度者長々御在洛候之處ニ、和州追々御尋本望候、雖然

取紛無馳走、所存之外候、必来春者可為御上国之条、静々

可申承候、（羽柴秀吉）関白殿御機嫌能、御位等迄被仰出、我等式満足

此事候、猶正田九兵衛尉可申候、謹言、（就茂）

（天正十六年）十月十日 秀長（羽柴）（花押）

（吉川広家）羽柴新庄侍従殿

○元折紙。

次の史料は、大和国の村で明和二年に書き留められた幕府法令の一部である。条文を翻刻し、そこから読み取れる近世日本社会の特徴を論じよ。

一 農業者は、自由の村
 畑を今より入法能事一
 能種は撰むる所付
 耕作の之を荒れ地
 改むる者有之を悉く
 下は治法獨り百姓
 長煩い又も切なる親
 離る耕作は有難者
 有之をたふさるる
 立寄村中の物合田畑
 不量極の事

左の文書を全文翻刻せよ。

教會社五結ニ付御託

今般信者有志ノ輩ヨリ教會社五結ニ致
度方別紙ノ通リ申出有右會社加入
ノ信者ヲ相團テ真心教社ト稱シ該般
尽力致意最モ教會方法ノ儀ニ総テ
教會大意ニ照準シ施設可仕テ御差
闕モ多クモ右結社沖岡海被成下也
格テ彩々也

上条第1區

お國寺住持

東上ノ室中

萩野獨園

父

慈照院住持

明治七年九月

櫻井玉岫

前書ニ通申出有信者要ス仕々也

上条第1區

戸長

中村重吉

京都府知事

長谷信篤殿

次の漢文の傍線部を現代語訳せよ。

倭國、在百濟、新羅東南、水陸三千里、於大海之中依山島而居。魏時、譯通中國。三十餘國、皆自稱王。夷人不知里數、但計以日。其國境東西五月行、南北三月行、各至於海。其地勢東高西下。都於邪靡堆、則魏志所謂邪馬臺者也。古云去樂浪郡境及帶方郡並一萬二千里、在會稽之東、與儋耳相近。漢光武時、遣使入朝、自稱大夫。安帝時、又遣使朝貢、謂之倭奴國。桓、靈之間、其國大亂、遞相攻伐、歷年無主。有女子名卑彌呼、能以鬼道惑衆、於是國人共立為王。有男弟、佐卑彌理國。其王有侍婢千人、罕有見其面者、唯有男子二人給王飲食、通傳言語。其王有宮室樓觀、城柵皆持兵守衛、為法甚嚴。自魏至于齊、梁、代與中國相通。

（『隋書』倭國傳より）

<文献史料>

【解答例】

問1

(一) 壬午、都下卅八寺をして一日一夜薬師経を読ましむ。官戸十一人を免して良と為す。奴婢一十人を除きて官戸に従はしむ。右大臣の病を救はむが為なり。壬辰、勅す、征隼人持節將軍大伴宿祢旅人は宜しく且つ入京すべし。但し、副將軍已下は、隼人未だ平らかならず。宜しく留りて屯すべし。癸未、詔す、治部の奏を省みるに、公驗を授くるに僧尼多く濫吹有り。唯だ学業を成す者一十五人、宜しく公驗を授くべし。自余は停めよ。是の日、右大臣正二位藤原朝臣不比等薨す。帝深悼惜す。之が為に廃朝し、内寝に挙哀す。特に優勅有りて、弔賻の礼群臣に異なる。大臣は近江朝内大臣大織冠鎌足の第二子也。甲申、詔して舍人親王を以て知太政官事と為す。新田部親王を知五衛及授刀舍人事と為す。丁亥、詔す、諸の内印を請ふは、今より以後、応に両本を作るべし。一本は内に進め、一本は施行せよ。九月庚戌の朔、日蝕すること有り。辛未、諸国官に申す公文、始めて駅に乗りて言上せしむ。丁丑、陸奥国奏して言す、蝦夷反乱し、按察使正五位下上毛野朝臣広人を殺す。戊寅、播磨按察使正四位下多治比真人県守を以て持節征夷將軍と為す。左京亮従五位下下毛野朝臣石代を副將軍と為す。軍監三人、軍曹二人。従五位下阿倍朝臣駿河を以て、持節鎮狄將軍と為す。軍監二人、軍曹二人。即日節刀を授く。

(二) 右大臣、治部、左京亮

問2

なおもって隆景一所に湯治そうろう、朝夕閑談つかまつり、御噂耳にそうろう、返す返すようよう使者入魂浅からず候、以上

下国につきわざわざの使者、ことに太刀・馬到来、毎事懇切申しつくしがたくそうろう、よって今度は長々御在洛そうろうのところに、和州追い追いお尋ね本望にそうろう、しかりといえども、取り紛れ馳走なく、所存のほかにそうろう、必ず来春は御上国たるべきの条、静々申し承るべくそうろう、関白殿御機嫌よく、御位などまで仰せ出だされ、我ら式満足このことにそうろう、なお正田九兵衛尉申すべくそうろう、謹言、

十月十日 秀長（花押）

羽柴新庄侍従殿

京都より国元へ下向するにあたり、わざわざ使者と太刀・馬をお贈りいただき、いつものことながら感謝申し上げます。今回は京都に長期滞在后、大和へお尋ねいただき光栄に思う。にもかかわらず忙しさに取り紛れ、十分なおもてなしもできず、申しわけないかぎりである。来春には上洛されると聞いている。兄秀吉も機嫌よく、あなたに位などもあたえられるようにと話しており、わたくしもこのうえないことと思う。よりくわしい内容については、わたくしの使者である正田九兵衛尉がお伝えする。そのものにお聞きいただきたい。

なお、小早川隆景と一緒に有馬で湯治しているが、朝夕、のんびりお話しているなかでも、あなたのうわさを耳にしている。いずれにしても、遠くからのねんごろのお使い、かたじけないかぎりである。以上。

問3

一、農業情（精）出し、無油断田畑可令手入。諸作、第一能種を撰ミ候而蒔付、耕作可入念。荒作之様致し候者有之者、急度可令詮議。独身之百姓、長煩ひ、又者幼少ニ而親に離れ、耕作仕付難成者有之者、庄屋・年寄・五人組立会、村中ニ而助合、田畑不荒様ニ可仕事。

→以下のポイントを理解できているかが問われる。

☆近世日本の公権力は、「年貢を現物の米で納めさせる」という建前を最後まで崩そうとしなかったため、村人たちには農業、それも水稻稲作に専念してもらう必要があり、ゆえに幕府法令でも、農業に精を出して、田畑が荒れないように、たえず注意せよ、と命令することになったこと

☆年貢の村請が支配の基本方針となっていたこととも相俟って、農業経営が苦しくなった世帯（独身でかつ病気を患った百姓や、年少者しかいない世帯など）がいたとしても、その第一義的な生活保障・救済責任は公権力ではなく、「村」にあったこと

問4

教会社取結ニ付御願

今般信者有志ノ輩ヨリ教会社取結ニ致
度旨別紙ノ通り申出候間、右会社加入
ノ信者ヲ相団テ真心教社ト称シ諸般
尽力致度、最モ教会方法ノ儀ハ総テ
教会大意ニ照準シ施設可仕候、御差
問モ無之候ハ、右結社御聞済被成下候
様奉願候也

上京第十区 相国寺住職

東上不在中 荻野独園

代 慈照院住職

明治七年九月 桜井玉岫

前書之通申出候依而奥印仕候也

上京第十区

戸長 木村重兵衛

京都府知事

長谷信篤殿

※解答例では旧字は新字に改めたが、旧字のままでも差し支えない。また、僧侶二名の名前は誤っていても大きく減点はしない。

問5

漢の光武帝の時に使者を遣わして入朝させ、(使者は)自ら大夫と称した。安帝の時代に、ふたたび使者を使わして朝貢してきた。これを倭奴国という。桓帝・靈帝の時代に、その国は大いに乱れ、次々と戦争が起こり、何年にもわたって君主となる者がいなかった。卑弥呼という名の女子がおり、呪術によって人々を惑わすことができたので、国の人々はともにこれを立てて王とした。(卑弥呼には)弟があつて卑弥呼が国を治めるのを助けた。王には婢が千人もいたが、顔を見た者はほとんどいなかった。二人の男子のみが王に飲食をささげ、言葉を伝えた。王は宮殿・楼閣・城砦があり、みな武装した者が守っていて、その法はたいへん厳しかった。魏から斉・梁に至るまで、王朝ごとに中国と通交してきた。

2026年度
奈良大学大学院 春季入学試験
文学研究科 文化財史料学専攻
(博士前期)

試験問題

英 語

【解答に関する注意】

- ① 日本史学もしくは世界史学を専攻する志願者は、Aの英語を選択し解答せよ。なお、解答は解答用紙に記入すること。
- ② 美術工芸史学、考古学もしくは保存修復学を専攻する志願者は、Bの英語を選択し解答せよ。なお、解答は解答用紙に記入すること。
- ③ 英和辞典の持ち込み可(電子辞書は不可)。

A

(日本史学・世界史学を専攻するもの)

以下の史料を日本語に訳しなさい。



Gettysburg address delivered at Gettysburg Pa. Nov. 19th, 1863. [n. p. n. d.].

Gettysburg Address

Delivered at Gettysburg, Pa.

Nov. 19th 1863.

"Four score and seven years ago our fathers brought forth on this continent a new nation, conceived in liberty, and dedicated to the proposition that all men are created equal. "Now we are engaged in a great civil war, testing whether that nation, or any nation so conceived and so dedicated, can long endure. We are met on a great battlefield of that war. We have come to dedicate a portion of that field as a final resting place for those who here gave their lives that that nation might live. It is altogether fitting and proper that we should do this. "But in a larger sense we cannot dedicate, we cannot consecrate, we cannot hallow this ground. The brave men, living and dead, who struggled here have consecrated it, far above our poor power to add or detract. The world will little note, nor long remember, what we say here, but it can never forget what they did here. It is for us the living, rather, to be dedicated here to the unfinished work which they who fought here have thus far so nobly advanced. It is rather for us to be here dedicated to the great task remaining before us, that from these honored dead we take increased devotion to that cause for which they gave the last full measure of devotion, that we here highly resolve that these dead shall not have died in vain, that this nation, under God, shall have a new birth of freedom, and that government of the people, by the people, for the people, shall not perish from the earth."

B

(美術工芸史学・考古学・保存修復学を専攻するもの)

下の文章は福岡県嘉麻市アミダ遺跡に関するものである。日本語に訳しなさい。

The purpose of this research is to elucidate the background behind the emergence of large-scale settlement in Kyushu in the latter half of Late Jomon. Reexamination was conducted on Amida site located in Kama City, Fukuoka Prefecture, which is synonymous with the large-scale settlement site from this period. Also, other Jomon period sites in the Onga River basin where the Amida ruins are located were analyzed in order to discuss why such large-scale settlement emerged in the latter half of Late Jomon by locating Amida site within the dynamics of settlements in the region.

As a result of the analysis, it was revealed that the large number of residential remains excavated at Amida site were a result of long-term residential activity in one place, and that no phenomena were detected that indicate population growth in the Onga River basin during the latter half of Late Jomon. A possibility was pointed out that a long-term residence strategy utilizing surrounding food resources to the maximum, indicated by Amida site, may have emerged in the process of adapting to inland environment triggered by the instability of inner bay environment in the coastal area since the beginning of Late Jomon.

出典：福永将大「アミダ遺跡の再検討ー縄文時代後期後半の吸収における「大規模集落遺跡」出現に関する一考察ー」日本考古学協会 『日本考古学 第58号』 2024

<英語>

【解答例】

A (翻訳案)

ゲティスバーグ演説 エイブラハム・リンカン

87年前、私たちの父祖はこの大陸に、自由という理念によってうち建てられ、すべての人間は平等に創られているという信条に捧げられた新しい国家を築き上げました。今、私たちは大きな内戦に突入しており、国家、あるいはそのように構想され、捧げられたいかなる国家も、長く存続できるかどうかを試されています。私たちは、その戦争の激しい戦場にいます。私たちは、この国の存続のためにここで命を捧げた人々の最後の安息の地として、戦場の一部を捧げるために来ました。私たちの行いは、全くふさわしく、適切なことなのです。

しかし、より大きな意味では、私たちはこの地を捧げることはできません…私たちは聖別することができません…我々は神聖化することはできません。ここで闘った勇敢な人々は、生きている人であっても亡くなった人であっても、この地を、私たちの乏しい力で付け加えたり減らしたりするよりもはるかに神聖なものとしたのです。世界は、私たちがここで何を語るかにはほとんど注目しないけれども、何を成し遂げたのかについては決して忘れることはないでしょう。

ここで戦った人々がこれまで気高く推し進めてきた未完の仕事に、私たちこそが身を捧げるべきです。私たちの前に残された偉大な任務に、私たちはここで身を捧げるべきです。これらの名誉ある戦死者から学び、彼らが最後の力を尽くした大義に、私たちはさらに深い忠誠を誓います。私たちはここで、これらの戦死者の死が無駄にならないよう、強く決意します。この国は、神のもと、自由の新たな誕生を迎え、人民の、人民による、人民のための政治が、地上から消滅することはありません。

1863年11月19日

B

本研究の目的は、縄文時代後期後半の九州における大規模集落の出現背景を解明することである。検討は、縄文時代後期の大規模集落として著名な福岡県嘉麻市アミダ遺跡について行われた。また、アミダ遺跡のある遠賀川流域における他の縄文遺跡についても、なぜ縄文時代後期後半にそのような大規模集落が現れるのか、当地域の集落動態を議論するために分析がなされた。

分析の結果として、アミダ遺跡において多数の住居跡が発掘されたのは一カ所に長期間の居住が行われた結果であり、また、縄文時代後期後半の遠賀川流域において人口増加を示す現象は何ら認められないことが判明した。アミダ遺跡で看守された現象は、周辺の食糧資源を最大限に利用し、長期間の居住戦略をとった可能性や、縄文時代後期初頭以降、海浜部内湾の気候変動が発生し、内陸部の環境に適応する過程で生じた可能性などが指摘された。

2026年度

奈良大学大学院 春季入学試験
文学研究科 文化財史料学専攻
(博士後期)

試験問題

外国語 (英語)

【解答に関する注意】

英和辞典の持ち込み可(電子辞書は不可)。

下の文章は福岡県嘉麻市アミダ遺跡に関するものである。日本語に訳しなさい。

The purpose of this research is to elucidate the background behind the emergence of large-scale settlement in Kyushu in the latter half of Late Jomon. Reexamination was conducted on Amida site located in Kama City, Fukuoka Prefecture, which is synonymous with the large-scale settlement site from this period. Also, other Jomon period sites in the Onga River basin where the Amida ruins are located were analyzed in order to discuss why such large-scale settlement emerged in the latter half of Late Jomon by locating Amida site within the dynamics of settlements in the region.

As a result of the analysis, it was revealed that the large number of residential remains excavated at Amida site were a result of long-term residential activity in one place, and that no phenomena were detected that indicate population growth in the Onga River basin during the latter half of Late Jomon. A possibility was pointed out that a long-term residence strategy utilizing surrounding food resources to the maximum, indicated by Amida site, may have emerged in the process of adapting to inland environment triggered by the instability of inner bay environment in the coastal area since the beginning of Late Jomon.

出典：福永将大「アミダ遺跡の再検討ー縄文時代後期後半の吸収における「大規模集落遺跡」出現に関する一考察ー」日本考古学協会 『日本考古学 第58号』 2024

外国語（英語）

【解答例】

本研究の目的は、縄文時代後期後半の九州における大規模集落の出現背景を解明することである。検討は、縄文時代後期の大規模集落として著名な福岡県嘉麻市アミダ遺跡について行われた。また、アミダ遺跡のある遠賀川流域における他の縄文遺跡についても、なぜ縄文時代後期後半にそのような大規模集落が現れるのか、当地域の集落動態を議論するために分析がなされた。

分析の結果として、アミダ遺跡において多数の住居跡が発掘されたのは一カ所に長期間の居住が行われた結果であり、また、縄文時代後期後半の遠賀川流域において人口増加を示す現象は何ら認められないことが判明した。アミダ遺跡で看守された現象は、周辺の食糧資源を最大限に利用し、長期間の居住戦略をとった可能性や、縄文時代後期初頭以降、海浜部内湾の気候変動が発生し、内陸部の環境に適応する過程で生じた可能性などが指摘された。